

2009年度
港区地域こぞって子育て懇談会
報告書

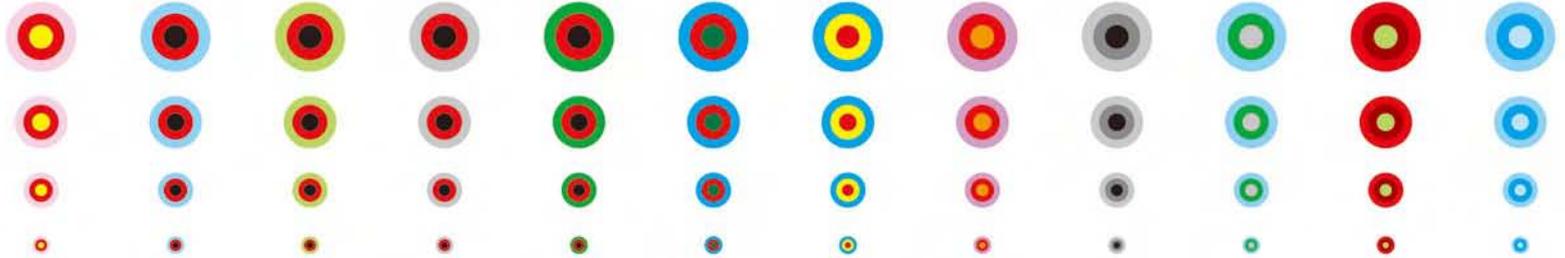
みんなで聞こう・いっしょに話そう

つながりの輪をひろげたいなあ、
まちに顔見知りがあると安心できるね。



- 主催：港区立子ども家庭支援センター
明治学院大学社会学部附属研究所
- 協力：みなと子育てネット Wa.Wa.Wa
めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊





2009年度 港区地域こぞって子育て懇談会

2010年1月23日(土)午後1時～3時30分 港区立男女平等参画センター(リーブラ)5階ホールにて

～みんなで聞こう・いっしょに話そう～

つながりの輪をひろげたいなあ、まちに顔見知りがあると安心できるね

・・・午後1時開会・・・

オープニング クルポズによる演奏



開会あいさつ 港区子ども支援部 部長：杉本隆より

その1 港区内の子育てグループ活動紹介

進行：みなと子育てネットWa.Wa.Wa



その2 ママ&パパ発メッセージ

「子どもをもって感じたよ！地域のつながりだいじだね」

出演：懇談会企画会議メンバー・めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊メンバー・港区立子ども家庭支援センター職員

その3 はじまっているよ！地域のつながり創り

港区内のあちこちで進められている、
地域のつながり創りのさまざまな取り組みを、
10組のみなさんから報告していただきました。



・・・午後2時20分頃ひとやすみ

その4 みんなで聞こう・いっしょに話そう(参加者によるラウンドミーティング)

・小さなグループで丸く座り、意見や感想を交換しました。
・ラウンドミーティングまとめ



閉会あいさつ 明治学院大学社会学部附属研究所 所長：野沢慎司より

クロージング ちびっ子ナイト養成倶楽部(子育てサロン)によるパフォーマンス



・・・午後3時30分閉会・・・

●主催：港区立子ども家庭支援センター・明治学院大学社会学部附属研究所

●協力：みなと子育てネット Wa.Wa.Wa・めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊

目次

	ページ
1 港区地域こぞって子育て懇談会とは…？ 経過と概要	2
2 2009年度 港区地域こぞって子育て懇談会	8
1) あいさつ 杉本隆部長／野沢慎司所長	8
2) ママ&パパ発メッセージ「子どもをもって感じたよ！地域のつながりだいじだね」	9
3) はじまっているよ！地域のつながり創り	12
◎ママたちの取り組み	
・働くママ&働きたいママネット“ゆいまーる”（報告者：影田智子さん）	12
・こども療育バオ利用者 佐藤美恵さん	12
◎パパたちの取り組み	
・ヒマラヤスギの会（報告者：山崎一穂さん）	13
・（仮）お台場おっちゃんの会（報告者：間瀬法美さん）	14
◎おばちゃん・おじちゃんたちの取り組み	
・島田茂都子さん	15
・井林靖雄さん	16
・すみっこ文庫（報告者：荒澤経子さん）	17
◎まちのいろいろな人たちの取り組み	
・三田地区まちぐるみ大運動会（報告者：黒川健治さん）	17
・白金志田町倶楽部（報告者：山田聡さん）	18
・芝の家（報告者：坂倉杏介さん）	19
4) みんなで聞こう・いっしょに話そう（参加者によるラウンドミーティング）	20
3 港区内の子育てグループ活動紹介	28
4 どんな人たちが参加してくれたのかしら？	32
5 スタッフ感想	34
6 めいがかくキッズ&ママ・パパ応援隊メッセージ	36
7 明治学院大学社会学部附属研究所 実践活動の経過	38
8 ソーシャルワーカーの所感	40

1

2

3

4

5

6

7

8



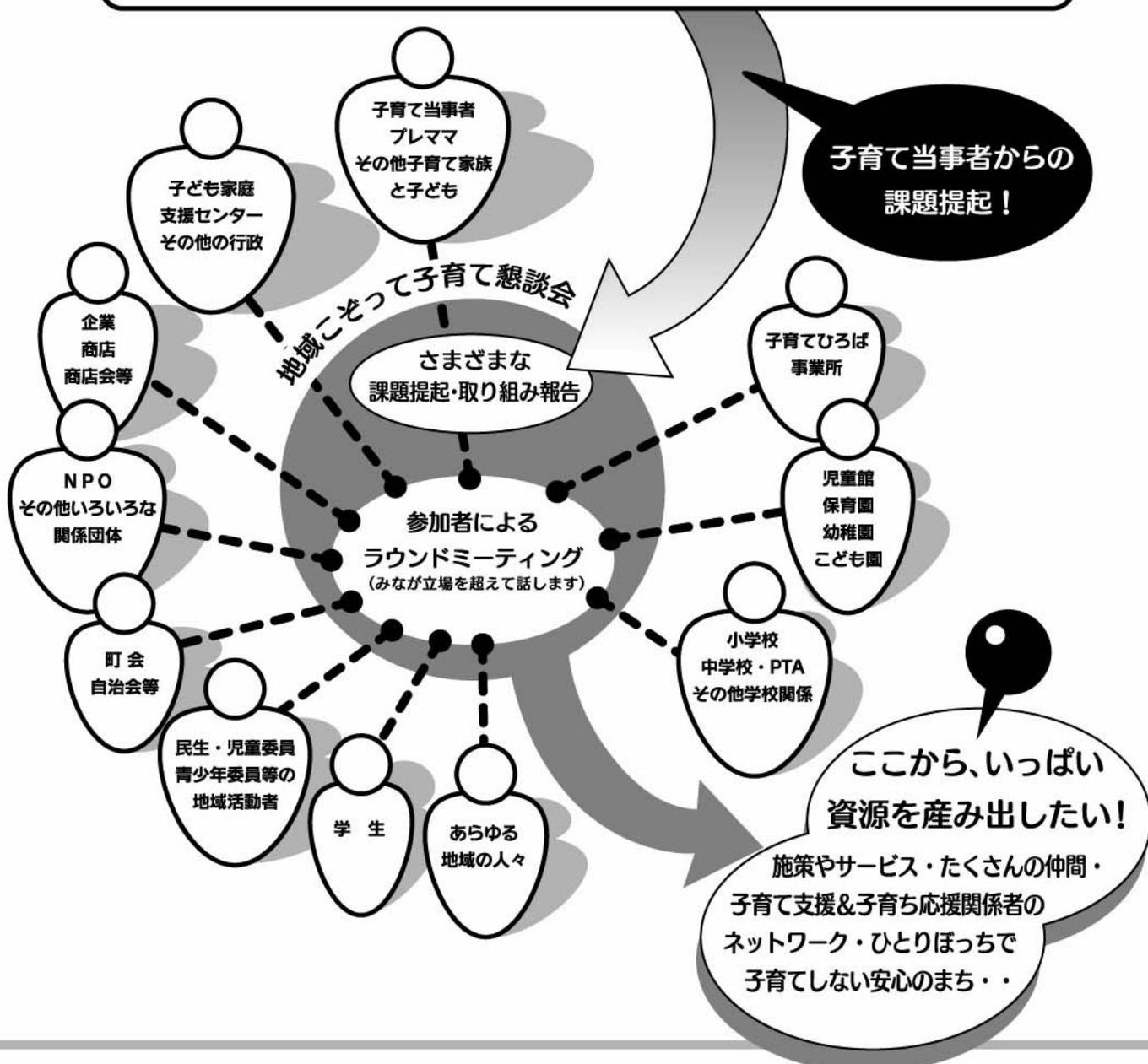
『地域こぞって子育て懇談会』は、

地域における子育て支援・子育て応援のための環境向上について、子育て中の人たちと、子育てを応援しようという地域の人たちが、共に考え、話し合うための懇談会です。

「子育て当事者発」を基本とする課題提起を行い、子育て支援・子育て応援関係者のネットワーキングの場にしていきたいです！

地域こぞって子育て懇談会 企画会議

子育て中のママ・パパ、みなと子育てネットWa.Wa.Wa&子育てグループ、港区立子ども家庭支援センター、明治学院大学社会学部附属研究所ソーシャルワーカー、学生、その他



2005 年度市民講座

(明治学院大学社会学部附属研究所主催、港区立子ども家庭支援センター協力)

「都心で子育てまっ最中！ママ・パパからの発信～子育てをささえる地域創りとは～」

明治学院大学社会学部附属研究所とつながりのできた子育てグループのママたちと協議し、「子育て当事者の立場から地域に向かって発信しよう！」という講座を開催しました。地域の他のグループとの出会いやつながりの機会にもなりました。

社会学部附属研究所が募集した学生ボランティア「めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊」(通称：応援隊)も参画しました。その後、応援隊は毎年度参画していくことになりました。

市民講座の内容

- 港区内の子育てグループ活動紹介 (9グループ参加)
- 「ふれあいの家ーおばちゃんち」 幾島事務局長のスピーチ (品川の子育て相互支援ネットワークについて学びました)
- 都心での子育てを取り巻く現状やニーズを当事者の声として発信

都心での孤立しない子育て、それをささえる地域創りについて、さまざま人々と考える第一歩の発信でした。子育てグループのネットワークづくりも進展。でも、パパをはじめ男性の参加は少なく、地域社会全体で考えることのむずかしさ・課題も感じさせられました。

2006 年度港区地域こぞって子育て懇談会

「みんなで聞こう・いっしょに話そう～子育てをささえる地域創りとは～」

明治学院大学社会学部附属研究所が、初めて港区立子ども家庭支援センターと共催した懇談会。2005 年度の市民講座で出会った、子育てグループで活動するママたちは、グループ間のつながりを産み、情報を共有し、本懇談会企画の担い手にも元氣よく手を挙げてくれました。

懇談会の内容

- 子どもたちと遊ぼうタイム～♪
- 港区内の子育てグループ活動紹介
- 子育てをささえる地域創りのためのラウンドミーティング

参加者によるラウンドミーティングでは、子育てをささえる地域創りのための「地訓」を皆で考え、話し合いました。昔は、どの家にもあった「家訓」。地域の中で子どもを育てるために、親として大人として、こうあるべき&こうありたいね、という想いを「地訓」としてまとめました。

2007 年度港区地域こぞって子育て懇談会

「みんなで聞こう・いっしょに話そう～急募！子育てにやさしい店と街～」

2006 年度 懇談会で、設立を表明したみなと子育てネット Wa.Wa.Wa メンバーが主体的に参画しました。メンバー自ら、ママ&パパの声をきいて企画に反映させようと、芝浦港南地区にて子育てアンケート調査をしました。

懇談会の内容

- 子育てアンケート調査の報告～ベイエリアのママ・パパたちに聞きました！～「子育てで困ったこと」を寸劇で発表
- 子育てにやさしい店と街！～私たちの提案～
- ラウンドミーティング「聞かせてほしい、みんなの意見」

参加者に、3つの提案のいずれかのグループに分かれていただき、意見交換しました。さまざまな意見が交わされました。共に検討するための前向きな意見もありましたが、「おいしいレストランに行きたいの？子育て中はがまんでしょ」「親子のマナー大問題！」「ただでは場所は確保できない」等々、いろいろな意見をいただきました。「子育て支援は賛沢」という意見から、社会学部附属研究所は、このテーマの市民講座を 2008 年度に開催しました。

子育てアンケート結果から、子育て当事者のニーズ実現につなげる提案をしました。
(1)子育てにやさしい店の基準づくり
(2)子連れで集えるオープンスペース大募集
(3)子育てバギーキャラバンやります！

2008 年度港区地域こぞって子育て懇談会

「みんなで聞こう・いっしょに話そう～つながりの輪をひろげたいなあ～」

懇談会の内容

- 港区内の子育てグループ活動紹介
- 「子育てにやさしい街への提案」取り組み状況報告と“次なる提案”求めるオープンスペースのイメージを、寸劇で発表。
- 「みなさん語って」子育て支援関係機関のみなさんよりコメント
- みんなで聞こう・いっしょに話そう（参加者によるラウンドミーティング）

2007年度懇談会での「子育てにやさしい街への提案」について、企画メンバーは、懇談会で投げかけられた意見をふまえ、あらためて「子育てにやさしい街」について考え、先駆的な他地区の取り組みの視察に赴き、自分たちでできること・すべきことをディスカッションしました。ただ店や場所がほしいだけではない、ほしいのは人と人との「つながりの輪」、それをひろげるために、みなが立ち寄れる「オープンスペース」を望んでいるのだと確認しました。そして、地域の子育てに役立つナマ情報は、自分たちの手で集め、共有・発信しようとブログを立ち上げたことを報告しました。

“次なる提案”

- 「オープンスペース」から、地域の中に顔見知りをつなぐつなかりづくりをしたいです。子育て世代だけでなく、異世代のつながりもひろがりますように。
- 子育て支援関係機関のみなさん、子育て当事者がお客さんにならず、主体的につなかりをつくれるよう、これからも応援してほしいです。
- 子育て支援関係機関のいろいろな事業の場も、地域のさまざまなつながりをひろげられる場になったらうれしいです。

残されたコメントから、2009 年度港区地域こぞって子育て懇談会へ

2008年度 懇談会は、コメンテーターとして、さまざまな子育て支援関係機関のみなさん(13名)に参加していただき、各団体や事業所における取り組み報告と、「次なる提案」(上記)に対するコメントをいただきました。子育て当事者同士のつながりへの期待と共に、支援の場に出かけにくい親子への心配、関係機関としての支援やコーディネーションの役割の必要等々のコメントが残されました。

子育て当事者、地域活動者・NPO、その他の方々に子育て支援関係機関のコメンテーターも加わったラウンドミーティングでは、さまざまな意見や感想が残され、たくさんのアイデアや貴重な気づきがありました。*

2009年度 懇談会へ向けては、そのひとつひとつの意見をふり返りながら、次に取り組むべき課題を共有しました(以下)。

◎2008年度懇談会で提案された「オープンスペース」、

そうした場に行ける親子はいいけれど、出て行けない親子のことがとても心配。

◎「オープンスペース」って、ママもパパも働いていると利用の機会はないかも。

◎地域のつながりって小学生になってからのほうがより切実では。

つながり創りには、親の努力が必要かもしれない。

*詳細は、明治学院大学社会学部付属研究所サイトに掲載している「2008年度港区地域こぞって子育て懇談会報告書」をご覧ください。

2009年度港区地域こぞって子育て懇談会 企画会議が始まる前に、こんなことがありました。

第1回グループつながろう会より

(2009年5月8日)

参加したグループの活動紹介や、港区立子ども家庭支援センターのスタッフもまじえて、地域のつながりの話で盛り上がりました。

- 町会って、つながり創りのためにいろいろ取り組んでいるところもある。
- でも、転入者は町会に入ろうと思っても入れない？！
- 防災がらみで、子どもを巻き込んで取り組んでいる地域もある。

「グループつながろう会」 とは？

港区地域こぞって子育て懇談会の企画に携わってきたみなと子育てネット Wa.Wa.Wa が、あらためて、さまざまな子育てグループとの交流をひろげようと、港区立子ども家庭支援センターにおいて、2009年度より開催している会(港区立子ども家庭支援センター共催)。つながるとできること・広がることがたくさんあることを伝えていこう～という場。

明治学院大学 社会学部附属研究所 団体ヒアリングとは？

明治学院大学社会学部附属研究所相談・研究部門が、「区内の子育てに関する団体等へのヒアリング調査」として、2009年度に実施した。さまざまな状況の子育て家庭が課題別に形成するグループや団体に、活動内容や運営に関する現状や課題・展望等をうかがった。

明治学院大学社会学部附属研究所 団体ヒアリングより

(2009年7月～11月実施)

- ハンディのある子を商店街の人たちに知ってもらおうよ、いろいろ働きかけているママがいました。
- ハンディのある子をもつママたちからの要望は、「子どもといっしょに、地域の人たちとふれあう場所がほしい」でした。
- ハンディのある子をもつママたちのシンパイは、学校卒業後の、地域での子どもたちの暮らしについてでした。

明治学院大学社会学部附属研究所がグループ活動を応援している中で、 新たな子育てグループから聞こえてきたこと

(2009年5月～10月)

- 働きたいけど保育園は待機状態！自分たちでできることは何かを考えている。できることをやっていきたい。
- 保育園を利用していても、地域内の親子間の交流は意外と少ない。
- 「遠くの実家より、近くのママ友」だから皆がふらりと来られる場をつくりたい。集まったママがプチ先生になって高めあいたいな。
- 孤立しがちな親子が参加できる場を、いろいろな力を合わせてコラボレーションして、つくっていききたい。

明治学院大学 社会学部附属研究所の 実践活動

地域のみなさんのボランティアな活動を応援するため、地域活動相談、講座企画・実施、情報の収集と提供に取り組んでいます。グループをこれからつくりたい人の相談に応じています。

◆やっぱり、こんなテーマが見えてきました・・・◆

- (1) 学童期を見ずえて、地域の中に顔見知りをつやそう！
- (2) 働くママとパパの地域のつながり、どうふやしたらいい？
- (3) 出かけられない親子(=孤立している親子)への心配。

2009年10月23日
第2回企画会議にて、
ワールドカフェという方法を使って、
左記のテーマについて思いつくこと
考えることなんでもいろいろ、
いっぱい話しました。

●地域の中の顔見知り？

- ・ 都心でもつくれる！
例) コンビニやドーナツ屋さんだって顔見知りになれる。
- ・ 親の見えない努力が必要！
例) 挨拶する、積極的にコミュニケーションをはかる。
近くの店に頻繁に通う、...
- ・ 「おばちゃん力」絶対に必要！
- ・ 子どもの数と「人間関係の慣れ」度は比例関係？
- ・ 気遣いとプライバシーを守ること、境がわからない？
- ・ 子どもの成長に伴って親のつながる力も進化する？
(深く、広く)
- ・ 「人間関係の慣れ」度やつながる力の進化を促す
しかけがほしい。

キーワード

都心でもつくれる・親の見えない努力
おばちゃん力・人間関係の慣れ度
つながる力の進化・促すしかけ

●地域の中のおとなって？子ども時代をふり返って

- ・ お母さんもお父さんも地元の人。祭りもいっぱい！
今も異世代のお友だちが地域にいるよ。
- ・ 新しい分譲住宅地区、親たちがいろいろな企画をしてくれた。
夏祭り、ゴミ拾い、...、強制だったけど楽しかったよ。
- ・ 引っ越し、中学受験、地元の友だちでできなかった。
- ・ 地域につながりなくても暮らしてこられた。親が好きではなかつたのかもしれない。そういう人が増えている？よいのかな？
- ・ 地方出身の私。周囲は地縁・血縁者！皆が自分を知っていてくれています。
- ・ 遊んだ場所が一番懐かしい。転勤族ファミリーの子どもにとって、港区はふるさと(のひとつ)だと思ふ。
- ・ 弟たちはサッカー少年 親同士も仲よし！自分の時はそういうつながりがなかったの、なんだかいいなあ〜と思ったよ。

キーワード

地元の人・新しい住宅地・祭り・引っ越し
地縁血縁・ふるさと・親同士

●親や大人のありよう？

- ・ 親が人とのつながりがうすいと、子どもは偏る？！
- ・ 親やほかの大人たち、自分さえよければいいの？
- ・ 言葉を発しよう！お互いに気遣おう！
- ・ 「ありがとう」がたさく聞ける地域になるといいなあ
- ・ 男女の役割分担見直しも必要

キーワード

親のつながり・互いに気遣う
「ありがとう」が聞ける地域・男女の役割分担

●つながり？つながり？つながり？

- ・ つながりがあると地域で安心できる！
- ・ でも、本当に必要なモノ？絶対につながらなければいけない？
- ・ つながりの本質を再考しなければ。
- ・ つながることで、「楽しかった」「温かかった」
「ここに居てもいいんだ」と感じる。
- ・ つながりへの「受け止め感」。大人になっても感じられる機会が必要。
- ・ まちが、地域が、ゆるやかに受け止められたらいい。

キーワード

つながりによる安心・つながりの本質
つながりの再考・つながりの受け止め感

2009年11月13日
第3回企画会議

◆上記を見て・・・さらに、いろいろ話しました。

- ・ 出産前と子どもを産んだ後、人や地域との関わりをあらためて感じ、育児サークルに参加した。その後、自分がサークルを立ち上げた。
- ・ 子どもを産んで感じたつながりの大切さ、...、それは、実感しないとわからないかもしれない。
- ・ 注意されて「ありがとう」と言える親の力が大事。
- ・ 子どもの年齢やライフスタイルによって、行く場所、関わりをもつ場所はちがう。
- ・ 「おばちゃん力」は大切だけど、マイナスイメージもあるね。
- ・ 地域におじさんがいない。「おじさん力」はなくなった？

1
2
3
4
5
6
7
8
6

7回の企画会議を重ねて
2009年度港区地域こぞって子育て懇談会は
以下の内容になりました。



2009年11月27日
第4回企画会議

「みんなで聞こう・いっしょに話そう
～つながりの輪をひろげたいなあ、
まちに顔見知りがあると安心できるね～」

懇談会の内容

- ママ&パパ発メッセージ「子どもをもって感じたよ！地域のつながりだいじだね」・・・9ページに
- はじまっているよ！地域のつながり創り
港区内のあちこちで進められている地域のつながり創りのさまざまな、10組の取り組み報告・・・12ページに
- みんなで聞こう・いっしょに話そう(ラウンドミーティング)・・・20ページに
- 港区内の子育てグループ活動紹介(21団体掲示)・・・28ページに

2010年2月12日
ふり返りの会

ラウンドミーティングで交わされた感想や意見をもとに、
懇談会后、企画メンバーで話したこと・考えたこと

つながりをひろげる、
こんな“よさ”をもつ居場所・
オープンスペースがふえるといいなあ

これからできる公共施設、可能なら既存の施設にも、
こうした“よさ”を求めていきたいと話しました。

「芝の家」の“よさ”として挙げたこと

- ・住宅のある地区の中にある。
- ・建物のオープンさ。
- ・ビルの中に入って行かなくてよい。
- ・「遊んでいかない？」って中から声をかけてくれる。
- ・乳幼児親子もダメではない。
- ・学生がいるのがよい。
- ・おばちゃん・おじちゃんが入り出しているのがいい。
- ・サラリーマンがランチしているのがオモシロイ。
- ・平日働いている親も土曜日に子連れで行ける。

懇談会でできたつながりを
発展させたいね

- こぞってネットワーク会議(仮称)
2010年度開催予定
子育て支援・子育て応援に関わる関係者の情報交換の場
- 「みなと子育てメーリングリスト」の活用
(みなと子育てネットWa.Wa.Wa管理)

町会・自治会・商店会
とつながりたいね

パパの子育てへの関わりや
活動の機会がふえるといいなあ

子育て当事者が懇談会に
もっと参加してくれるといいね

「みなと子育てメーリングリスト」へ
登録しませんか？

「みなと子育てメーリングリスト」は、みなと子育てネットWa.Wa.Waが管理するメーリングリストです。「子ども」「子育て支援」「親子」などをキーワードとする情報を交換するためのものです。

たくさんの方々に登録いただき活用することにしました。
ぜひ登録して、地域の子育て情報の発信をお願いします。

■登録先：wawawablog@mail.goo.ne.jp
お名前や所属(ある方)もお知らせください

1) あいさつ

■ 開会 あいさつ

本日はお忙しい中、大勢お集まりいただき、ありがとうございます。

本懇談会は、地域の子育て中の方々や子育て支援に携わるみなさんが一堂に会し、子育て支援に関わるこれからの地域活動について懇談し、今後の活動に役立てるということで毎年開催しています。明治学院大学社会学部附属研究所や地域活動のみなさんにご協力いただいています。開催にあたり、お力添えくださった関係者には、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

港区では、昨年（2009年）、約26年ぶりに人口が20万人台に回復しました。一番少なかった1996年には15万人台を切りましたが、徐々に回復し、特に芝浦・港南地域を中心に、現在人口が急増しています。この3年間で、0歳から14歳の年少人口も非常に増えています。

港区としては地域の活気が戻り、非常にうれしいことですが、一方で、大規模マンションの開発等で地域コミュニティが薄れています。子育て支援計画を立てる時に行ったアンケートでは、「子育てについて不安を感じている」、「相談相手がいなくて孤独だ」という答えが非常に多く、今子育て家庭は孤立化しているのでは？という不安を感じています。

そうした中、地域活動のみなさんが一丸となって子育て家庭を支え、地域で子育てすることが港区の重要な課題となっています。地域こぞって子育て懇談会に参加しているみなさんには、地域コミュニティを中心に、さまざまな地域の子育てに対する課題に取り組んでもらっています。これは非常に大切な活動で、行政が施策を推進するだけでは、子どもたちの幸せな健全育成の取り組みは進みません。みなさんの力が非常に大切です。

本日一堂に会した中での活動紹介や意見交換を、今後活かしていただければ幸いです。一日活発に議論し、今後の港区の子育て環境整備の向上に、少しでも役立ててほしいと思います。どうぞよろしくお願いします。

港区子ども支援部
部長 杉本 隆

■ 閉会 あいさつ

懇談会の2時間半は、あっという間に過ぎてしまいました。本日は、地域こぞって子育て懇談会の4回目（当研究所の共催回数）ということで、1年ぶりに会った人や初対面の人といろいろな話をして、楽しい時間を過ごしました。

明治学院大学社会学部附属研究所は、港区と提携して活動をしています。本日も、青いトレーナーを着た本学応援隊の学生が活躍しました。本学は、島崎藤村以来、120年の間白金に居を構えていますが、「大学が、地域にいったいどういう貢献ができるか。まだまだやれることはあるのではないか」と模索しながらやっています。学生、教員、ソーシャルワーカー、そして地域のみなさんともっと交ざり合っていきたいと思います。当研究所には、子どもたちが遊べるプレイルームという空間がありますので、大学の外からも入ってきてもらい、私たちも大学から外に出て活動するという活動を今後も続けていきたいと思っています。

元応援隊メンバーの本学卒業生が、本日3人参加してくれ、「今度は、子どもができれば参加します」と言っていました。この懇談会がずっと続くことを期待しています。みなさん、長い時間どうもありがとうございました。

明治学院大学社会学部附属研究所
所長 野沢 慎司

2) ママ&パパ発メッセージ「子どもをもって感じたよ! 地域のつながりだいじだね」

この懇談会は、みな子育てネットWa.Wa.Waが主催する「グループつながろう会」、明治学院大学社会学部附属研究所の調査・研究、区からの事業紹介などをもとに10月から企画会議を何度も重ねて準備してきました。企画会議のメンバーは、子育て中のお父さん・お母さん、子育てグループの人たち、明治学院大学の学生やソーシャルワーカー、子育て支援者、港区職員など、さまざまな立場の人たちです。

話し合いの中でどんな気持ちや意見が出されたのか、生の声をお届けします。一人ひとりが、子ども時代から今までの経験をもとに発表します。

～ナレーション：港区立子ども家庭支援センター職員～

学生編

「めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊」メンバーは、子ども時代を振り返りました。



結婚前! (学生)
「私が子どもの頃は…」

私が育った田舎では、今でも地域のつながりがあります。面倒なこともいっぱいあるけど、おじちゃんおばちゃんに名前を覚えてもらうのは、とてもうれしいです。



地縁もステキ

なんちゃん

見渡せば、私の周りは幼稚園の友だちばかり。それでも楽しかった。でも、親の引っ越しのせいで、泣く泣く小田原市千代へ行きました。でも、そこには面白いスーパーのおばちゃんや気さくな屋台のおじちゃんたちがいっぱいいて、「地域ってすごく楽しいな」って思いました。だから、私は千代っ子です。



千代っ子

はるちゃん

私の両親は、私の地元東京都北区王子に、もう半世紀以上も住んでいます。そのおかげで、両親の地域とのつながりが、今私の地域とのつながりになっています。私も、今のつながりを大切に、自分の子どもに受け継いでもらえたらと思っています。



東京・王子に暮らして半世紀以上…経っています!

まきちゃん

私は、4人姉弟の一番上。お母さんは、私のときよりも、長男、次男、三男の学校行事に参加したり、ほかのお母さんとコミュニケーションをとってお話したりして、とても楽しそう。「弟たち、ずるいよな」って思うんだけど、でも、お母さんが楽しそうだととてもうれしいです。



弟たち ずるい!
でもお母さん良かったね

あさみちゃん

私は、小4の3学期に引っ越しをしました。そこは、学年の4分の3が中学受験をする中学受験のマンモス校でした。

私もその受験の波にのまれて受験をしました。地域のつながりが薄いまま、受験をして私立中学に行ってしまったことに、今となっては一抹の寂しさを感じています。



小4 3学期
引っこし
中学受験

ゆきちゃん

1

2

3

4

5

6

7

8

2) ママ&パパ発メッセージ「子どもをもって感じたよ！地域のつながりだいじだね」

ママ・パパたち編

結婚という人生の大きな節目を迎えました。まちとのつながりについて、
子どもが生まれる前とあとでは、感じ方が違っていたようです。
子育て真っ最中。子どもをもって切実に感じたことは、こんなことです。

～ナレーション：港区立子ども家庭支援センター職員～

結婚・出産前
「子どもを生む
前は…」



子どもをもつ前は、早朝・深夜・泊まりがけと、バリバリ働いていたので、正直、ご近所との交流はありませんでした。
子どもが生まれたら、2人きりの時間も長くつらい時もありました。
そんな時見知らぬおばちゃんに、「子どもは宝ね」と言われて、とても救われた思いがしました。
引っ越した時に今度は勇気を出して、子どもを連れてご近所中にあいさつして回りました。
今では、ご近所の皆さんに見守っていただいています。
ご近所さんに感謝！
2人目の育児を楽しんでいます。



Before
Afterにここ「あいさつ」で
ご近所さんも育児サポーター

ノリータ

近所にコンビニエンスストアができました。近くなのでしょっちゅう行きます。
知らぬ間に顔見知りになり、気がつく、「こんにちは」の間柄になりました。
先日、6歳になる娘の初めてのおつかいに、そのコンビニに出しました。
結果は、丁寧に受け答えをしていただいたそうで、とても感謝しています。
「近くの店員さんに顔見知りが出てよかったな」と思う今日このごろです。



はじめてのおつかい〜！
どうする？
顔なじみの店員さんがいます

ちゃんこ

男性48分、女性7時間41分、
この時間は何でしょう？
もちろん、お風呂の時間ではありません。
もちろん、トイレの時間でもありません。
1日平均の男女の育児・家事にかかわる時間です。
この差を地域で何とかしなければいけませんね。
うーん。男の人、ネギを買うのを恥ずかしがってはいけません。ちゃんとネクタイをすればフォーマルです。
「ああ、緊張したな」(ポケットから何か取り出す)
「あっ！おむつだ！」吸収力抜群です。



男性 48分
女性 7時間 41分

ともちゃん

子育て真っ最中
「子ども持って
感じたよ！」



すべては、このようなひとつひとつの実感から始まりました。
そして、みんなで決めた懇談会のテーマは、「つながりの輪を
ひろげたいなあ、まちに顔見知りがあると安心できるね」です。

～ナレーション：港区立子ども家庭支援センター職員～

みなさん、今年も来たわよ、モモコよ。
私は32歳になったわ。
私の子どものタクヤは、とうとう小学校に入ったわよ。
やった！
小学校に入って思ったんだけど、学校に行く途中に、よくあいさつをするの。そしたら、ビルの管理人のおじちゃんとか警備員のおじちゃんとかと顔見知りになって、今では、登校誘導もしてくれて、たまには喫茶店のお兄ちゃんからお菓子なんかもらうこともあったりして、あいさつって結構いいかもよ。
また来年も来るから、よろしくね。



学童期あいさつすれば顔みしり
モモコ

地域のつながりって、何？
それって、もしかして、「おかげさま」、「おたがいさま」の精神で、みんながかかわり合うことかな。難しそう。勇気がないな。でも、子どもをもてたこと、それがチャンス。子どもと一緒に公園に行ったり、地元のお店に行く。いろんな知り合いが増える。地域のお祭りなどの行事に行く。
「ああ、みんな楽しそうだな。私にも何かできるんじゃないかな」、これがほんとのチャンス。きっとできるはず。自分のため、そして、子どものためにもなるんじゃないかな。
勇気をもって一歩前進。きっとできる。
YES・WE・CAN！（ムーンウォークで退場）



おかげさま おたがいさま
よっちゃん

私は子どもをもってから、ますますおせっかいになった。ある小児科病院での出来事。2カ月ぐらいの赤ちゃんを連れてお母さんがやってきた。
「まあ、何かひどそう。具合が悪そう。どうされた？え、悪化しちゃった？だめよ、この病院はやぶ医者で有名よ。大変じゃない。これ、私のアドレスと電話番号。あとで電話くれる？いい病院を紹介するから」。このときこの親子とは初対面であった。
「知らない情報は、みんなに教えてあげたい」、これが私のおせっかいである。
それから時は流れて3年半、その親子とは今もつながっている。



おせっかい
さかえっち

3) はじまっているよ！ 地域のつながり創り

ママたちの取り組み

働くママ&働きたいママネット“ゆいまーる”

報告者：影田智子さん

昨年春頃働きたいのに保育園に入れず困っているママたちの集まりがあるという情報が入りました。保育園に入れないことは大問題だけど、行政に要求するだけではなく、自分たちでがんばれることはやってみよう、働くママ(パパもかな)同士のつながりも大切にしようとしていました。ママもパパも働いているとまちの知り合いは限られる、だからこそつながりを大切にしたい…。そんな心意気を語っていただきました。

働くママ&働きたいママネット“ゆいまーる”事務局担当の影田です。私たちは、まだ生まれただけで報告できることはあまりなく、活動も暗礁に乗り上げている状態ですが、ぜひ地域のみなさんとつながりたいという想いで来ました。



“ゆいまーる”結成のきっかけは、保育園に入れない子どもをもつママたちが港区にたくさんいることでした。認証保育園にも入れず、無認可保育園に預けると1カ月15万円払わなければいけません。私たちの代表も、現在無認可保育園に預けて働いていますが、認証保育園に入れるのと半年で100万円違うという保育料の問題に悩んでいます。働きたいけど働けないママたちが、たくさんいるのです。

私たちはいつも、どこかで会ってぼやいて終わりでしたが、「私たちが何かできないかな。保育園に子どもを入れたいママの交流会をしよう」ということになりました。みなと子育てネットWa.Wa.Wa主催のグループつながろう会に参加し、このことを話したらWa.Wa.Waメンバーが、「サークルを作ったらどう?」と言って、力強い応援をしてくれました。私たちは、そのようなことは考えていませんでしたが、「そうだね。何かつながれたらいいよね」となり、「仲間はすぐからつながろう」ということで沖縄の言葉「仲間」という意味の“ゆいまーる”という名前を付け、支え合いをしていこうということになりました。

子どもが保育園に入れず本当に困っているの、「私たちが自主保育をしようか。」と話しますが、「でも、港区って家賃がすごく高くて、ひょっとしたら無認可保育園に預けるよりもお金がかかっちゃうじゃん?」という話です。臨時的保育施設

港区内のあちこちで進められている、地域のつながり創りのさまざまな取り組みを、10組のみなさんから報告していただきました。(以下、報告順)

でもいいから、認可保育園をたくさんつくってほしいと港区子ども課の課長と係長に話してみようという取り組みました。9月に実現し、課長と係長が、私たちのぼやきも含めて、細かいところまで話を聴いてくれました。

働けなかったママたちも、認証や認可保育園に預けて働き始めたら、メンバー全員で会う時間がなくなり、現在活動はストップ状態です。でも、今やネットの時代だから、それをつながりの中心にしてやっていきたいと思っています。

私たち働くママには、保育園卒園後も、学童期の悩みがあります。例えば、今児童館がなくなりつつあり、「どうするの?」という状態です。放課後の学校のクラブはありますが、わんぱく期の3~4年生になり、まちに出て活動する時、地域に子どもの拠り所があったら、学童保育卒業後も安心できると思います。

例えば、芝の家のような、地域のおじいちゃんやおばあちゃんが集まって子どもと出会う場所が、自宅の近くにもあったらすごくいいと思います。ペーゴマを教えてくれるおじさんがいて、そこに行ったら遊べるとか。地域で子どもを育てたいと思っているので、児童館がなくなったあと地域のみなさんと出会う場所が欲しいといつも思っています。

私も、みなさんとつながりたいと思って来ましたので、情報交換の場でつながっていききたいと思います。働くママは、子どもが保育園に入れなくて本当に困っています。何とか地域で支え合いができたらと思いますが、私たちの力だけでは無理というのが、今の私たちの悩みです。



こども療育パオ利用者

佐藤美恵さん

明治学院大学社会学部付属研究所は、今年度、地域の中のいろいろな子育てのことを教えていただこうと、テーマごとに集まりをもたれている保護者のみなさんにお話を聞かせてもらう機会をもちました。佐藤さんとは、その中でお目にかかりました。「うちの子ね、ハンディあるけど、商店街の御輿かつぎに参加させてもらいますよ〜」とカラリと語る佐藤さん。佐藤ママは、地域のみなさんにお子さんのことを知ってもらうための関わりを様々に工夫しているようでした。このことを語っていただきました。

私はグループで活動しているのではなく、家族がグループだと思っています。ポイントは、長男が脳性麻痺であることです。生まれた当初は脳梁形成不全で、「目も合わせないだろう。笑わないだろう」と言われました。



地域に根差すきっかけは、単純に仕事が先にありました。当初、私は、ポピュラーサイエンスというアメリカの翻訳雑誌の編集長をしていました。編集長を断ることがどうしてもできなかったので、主人に協力を得ようと思いました。しかし、主人も当時ビジネス誌の編集長をしていてどうにもなりません。「とりえず預け先が必要だ。無認可保育園で、高額を払ってでも預けなければ」と探しました。

仕事が終わるのが夜11時半になる場合もあるので、公立保育園では無理ということで、東麻布の保育所に預けることになりました。その数カ月後に、力が入らずぐにやぐにやるタイプの脳性麻痺と脳梁形成不全が判明しました。もう既に預けていましたが、保育所の先生たちに相談したところ、「障害児をもって働くことは、もしかしたら一大チャレンジかもしれない。ここは思い切って働いてみませんか」と言われ、編集長を降りずに働く決意をしました。その時私は、「最初に味方を得たこの東麻布で死んでもいい」と思ったので、後先考えずに東麻布に引っ越しました。

それから仕事も障害に対するケアもしていくことを考えた時、地元の力がなくてはどうにもならないことにすぐに気がつきました。そこで、私は、障害がある場合は大学病院で診てもらわなければいけません、できるだけ回数を少なくしています。近くの病院でMRAやCTスキャンを採って、そのデータを専門病院に移す連携を取ってもらっています。

港区には、先輩たちが開拓してくれた素晴らしい療育施設があります。現在は、その施設と二次保育としての東麻布の保育所を利用しています。重症の脳性麻痺児が、二次保育を受けているケースは未だにないと思いますが、その連携もスタートさせました。

東麻布にはのんびりとした商店街があります。「車椅子でカラカラと行けば、どこかで覚えてもらえるだろう」と、スーパーでの買い物ではなく商店街での買い物をあえて選びました。歯医者、本当は大きな病院の方がいいのかもしれませんが、東麻布の歯医者にしました。皮膚科や眼科も、できる限り近場を選びました。散髪は親がやったほうが安いのですが、慣れるのに非常に時間がかかるので、あえて小さいうちから散髪に通いました。今は、行けばわかって対応してくれます。また、発達支援ファイルを使って、療育施設と保育所、病院同士の連携を取り、個人的な理解者を増やすようにしました。

最後に地域で暮らすことが、どういうことかです。脳性麻痺児でも、お祭りに参加したり、消防車に乗せてもらったり、道ばたで子どもたちと一緒におやつをもらって食べられる、というのが今の私たちの生活です。障害児でここまでやっているのは、なかなかないという取り組みです。今後は、これをネットワークとして広げていけたらいいなと思っています。

<p>1</p> <p>障がい児を持つ親の 地域での子育て</p> <p>佐藤美恵</p>	<p>2</p> <p>家族構成</p> <ul style="list-style-type: none"> 夫(編集者) 私(編集者・ライター) 長男(脳性まひ・脳りよう形成不全) 次男(2歳)
<p>3</p> <p>地域に根差すきっかけ</p> <p>断れない仕事があった</p> <p>きっかけは小さなことから</p>	<p>4</p> <p>最初の味方は預け先</p> <ul style="list-style-type: none"> 産後2カ月で仕事再開 →不規則な勤務のため公立保育園でも対応が難しい →ベビー&キッズルーム バオに預ける →その数カ月後に病状が判明 →園長先生をはじめ先生方に理解を得る →味方を得て近所に引っ越し
<p>5</p> <p>味方を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆病院同士の連携(専門病院と地元の病院) ◆療育施設と保育所の連携 ◆買い物は商店会で ◆散髪、歯医者などは地元で ◆発達支援ファイルで理解者を増やす ◆あいさつはしっかり(先輩の意見を参考) →誰かの目の片隅にいつもいる 	<p>6</p> <p>地域で暮らす</p>
<p>7</p> <p>まとめ</p> <p>(障がいのある子育てするために)</p> <p>善意と行政頼みの生活から一歩前へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆一人でもいいから一般の人の味方をつくる。 ◆ママや子どもが孤立しない。 ◆障がいは隠さずオープンに。 →地域の人たちに存在を受け入れてもらうことが自立への力に! 	

パパたちの取り組み

ヒマラヤスギの会

報告者：山崎一穂さん

企画メンバーからの紹介で、昨年度の懇談会では活動紹介展示をお願いし、会のメンバーが当日参加してくださいました。それまで、なかなかパパの参加が得られにくかっただけに、関係者一同大歓迎でした。今回は、その2：ママ&パパ発メッセージでパパの想いを熱く語ってくれました。パパたちのボランティア活動、いろいろ課題もあるそうですが、地域の先駆者としての取り組みをきかせていただきました。

1
2
3
4
5
6
7
8

3) はじまっているよ！地域のつながり創り

非常に差し迫った問題を抱えている人たちに比べ、私たちは、どちらかというともっと緩いところから始まっています。

私たちがやってきたことと現在の問題点を活動紹介に書きました。ヒマラヤスギの会とは、御田小学校のおやじの会で、約15年の歴史があります。最初は年1回ぐらいしか活動していませんでしたが、5～6年前から変えていきました。

「子どもたちにかまってほしい」とか、「子どもたちに尊敬されたい」という動機で下心みえみえで始めました。いろいろなことをやっていくうちに、マスコミなどで採り上げられ、調子に乗っていろいろなことに手を出して、人手が足りなくなってきました。

現在活動しているメンバーは、同じ町会の近所の人たちなので、もともとつながりがあります。しかし、町会を手伝ってくれたり、いろいろなところから入ってきた新しい人はなかなか続きません。「そんなにたくさんやっていたら大変じゃないか」と入会者がだんだん減り、子どもが卒業すると同時に関わらなくなるので、今は非常に少数になっています。

続いていることは、青色防犯パトロールです。港区は青パトを走らせていますが、私たちも自前で1台持っています。これは、民間では最初です。私たちの活動が認められたのか、日本財団から車を寄付してもらい、メンバーが毎日走らせています。

他にもいろいろなことをやりましたが、いろいろな障害もありました。学校でDVD撮影をし、皆さんに配ったら、「個人情報流出だ」と言われたこともありました。夕方小学校の体育館で野球をやっていたら、無料の保父だと思われ、だんだんできなくなりました。しかしこれは放課後にシフトして続いています。

私たちのような活動を小学校単位でやるのは難しいと思います。もともと、他の中心メンバーも私も同じ町会の活動をしていたので、「町会という単位で括ったほうがいいのではないかと。子どもが小学校に行っている間だけでは意味がない」と思います。卒業してからも、住んでいる間はずっと関わるというものの見方をしないといけません。

今でも子どもたちと接することはもちろん多いですが、学校や区域をどんどん超えていった方がいいのではないかと、防犯と防災を基本にして小学校と絡めた活動をしています。

子育ては、一番身近にある、昔からあるものとしての町内会や町会が基本です。全国的に町会の機能が弱くなっている



ので、もう1回立て直さないといけません。自分たちがいる町内会や町会に一度関わってみてはどうかと思います。そこには必ず行政と政治が関わっています。その人たちを味方に付けてやっていくのが、一番長く続けられると思います。ネガティブな話をしましたが、継続することが一番大変だということがよくわかりました。一番身近な町会というネットワークで、そうしたものを作ることが一番いいと思います。

今日も行政や区議会議員が参加していますので、ぜひその方たちに活躍してもらえよう、訴えていったらどうかと思います。



(仮)お台場おっちゃんの会

報告者：間瀬法美さん

お台場にもおやじの会があるらしい！がんばるパパたちはヒマラヤスギの会だけではないらしい、これはお話を聞かねばとお呼びしました。お台場という地域性を活かしたまちづくりが進展する、この地域ならではのパパたちの取り組みを伺いました。そして、こんなパパたちの会がパワーアップすれば、他地区のパパたちを刺激することになるかもしれません(なってほしいな)。期待大です！

今日の午前中は地元で海苔作りをしてきました。実はお台場では、海苔が作れます。ちょうど中間取り取りの時期ですが、今年は豊作です。ちょっとつまんだら非常においしい海苔で、水も非常に澄んでいました。



私も、ヒマラヤスギの会の山崎さんと同じように、「おやじの会を作りたい」とみなさんに声をかけて、昨年の秋からおやじの居場所を考えようと、PTA前会長や校長先生に相談しました。まず、名前を何にするかということで、「(仮)おっちゃんの会」としてあります。実は、おっちゃんの会という読み方ですが、校長先生が関西の人で、「『おっちゃんの会』がいいよ(関西風のイントネーション)」ということで、「おっちゃんの会」にしようと思っています。昨年は、児童館やPTAに地元のお父さんたちを引っ張ってこようと、呼び水的に海苔作りをしました。

めざすところは、地域で子どもを育てることです。個人的には、他人の子を叱れるようになりたいと思っています。お台場は非常に若い町で、30代、40代の若いお父さん・お母さんが多く住んでいます。50代、60代、それ以上の人もいますが、他の地域に比べて非常に少ないです。

そうした世代を超えたつながりも、「おっちゃんの家」では必要なことです。特に、幼稚園児や保育園児の若いパパは非常に参加率がいいですが、小学校のPTAという堅い集まりになると、途端に出てこなくなります。ヒマラヤスギの会を見習って、幼・小・中での「おっちゃんの家」を作れるといい、ということになりました。

来年度、港陽小学校は、お台場学園という小中一貫校になります。幼稚園も同じ敷地なので、「おっちゃんの家」は幼・小・中で一緒にやろうと思います。幼稚園時代にお父さんを引っ張り、小学校時代にいろいろ活躍してもらい、中学校になっても離さないという形にしたいです。

お台場は非常に新しい町で、青少年対策地区委員会ができてまだ数年です。地区委員会やPTA、学校、幼稚園、保育園、児童館、スポーツ運営協議会、総合支所の台場出張所があります。その出張所の協働推進課の台場担当の係長には、地元と非常に仲よくお付き合いいただいています。地区委員会の会合にも必ず出席し、海苔作りもキーマンになってやってくれています。

私たちは、行政と地元と一緒に子どもを育て、心のふるさつを作りたいと思っています。お台場に住んでいる子は、長くても14年の子どもですが、その子どもたちが大人になった時に、「お台場に住んでよかったな。あのおっちゃんたちに怒られたけど、よかったな」と思ってほしいです。きょうだいがいるからということもありますが、親しんでもらえるように、他人の子でもなるべく下の名前前で呼んで、あいさつするように心掛けています。

中学校は人数が少なく、全校で60数人しかいません。お台場ならではの行事として、ウインドサーフィンやカヌーができるビーチ部のような部活を、地元と一緒にやろうと学校と共に立ち上げています。塾がない環境なので、地元が主体となり、学校の教室を借りて学習クラブお台場学園にも取り組んでいます。

めざすところは、私たちおじさんたちの拠り所となるサークルを、まず立ち上げることです。仮称の段階でまだまだ課題はありますが、頑張っていきたいと思っています。

おばちゃん・おじちゃんたちの取り組み

島田茂都子さん

(チャレンジコミュニティ大学修了生)

島田さんとは、チャレンジコミュニティ大学(明治学院大学が港区との提携で開講)修了生が主催する勉強会で、社会学部附属研究所の実践活動を紹介させていただく機会にお目にかかりました。地域の中でシニアのみなさんの居場所づくりに取り組まれていました。この度、サポーターとして関わられた「高輪支所のコミュニティサロン事業」、地域の中のつながりをあらためて紡ぐ場になるのでは、と。その様子をみなさんにも伝えていただきました。

私はおばちゃんではなくおばあちゃんなのですが、孫も高校生、小さなお子さんとは接する機会がない昨今です。

私の次に話をする、おじちゃん井林さんは、港区役所高輪支所が明治学院大学と提携し、10年計画で始めた成人学校チャレンジコミュニティ大学の同級生です。といっても、彼は私の弟と同じ年齢です。3年前の春から、井林さんと私は、その第1期生で同じクラスに在籍していました。チャレンジコミュニティ大学の対象は、民生委員と60歳以上の港区のおじいちゃん・おばあちゃんたちです。明治学院大学教授による一般教養授業と、区からは行政・地域に関して広く学びました。1年間の修了後は、チャレンジコミュニティ・クラブに籍を移します。1年間学んだことを活かしながら、地域に関わりをもって、自分たちのできることを率先して行動してください、という趣旨です。

このクラブの在籍者は、現在2期120名です。3月に3期生が修了式を迎えると180名になります。チャレンジコミュニティ・クラブは運営委員会を有して、会報誌を年4回発行、講演会やクラスごとの活動をしています。

昨年後半に、高輪支所協働推進課地区政策係から、「まちの中で、地域の人たちとふれあいがもてる憩いの場をコミュニティサロンとして開催したい。そのサポーターになってください」という提案がありました。11月の1週間、14人のサポーターが交代して、雨の日を除き、午前と午後を高輪支所の空いているスペースで、コミュニティサロンを開催しました。椅子とテーブルを並べ、お茶やコーヒーなどの飲み物を無料



3) はじまっているよ！地域のつながり創り

で提供し、手品やミニコンサートなどのイベントもありました。通りがかりの人、地域の人、お子さん連れのお母様も大勢立ち寄っていただきました。二人のお子さんとも会場でバルーンアートをして参加くださったお母様がおいででした。

お母様方からは、「子どもを中心としたつき合いばかりでなく、年配者や地域の人たちと、こうして一緒に過ごせるのとはとてもうれしい」という声が聞かれました。サポーターの私たちの仲間からは、「久しぶりに小さいお子さんたちと遊べてよかった」という声が自然と聞かれました。

これからもこの試みを活かそうと、暖かくなるのを待って、3月に高輪の高野山で再びコミュニティサロンを開催します。この機会にぜひサロンを訪れて、シニアや地域の皆さんと交流していただき、この企画を定着させ、続けていきますよう、お母様達にも応援していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



井林靖雄さん

(チャレンジコミュニティ大学修了生)

井林さんは、本懇談会の常連民生・児童委員さんです。子育て・家族支援者としてのご活躍も多くの方がご存知でしょう。実は昨年、ご自身のマンションでの取り組みをきかせてくださいました。「年をとったら、地域の者同士のつながりなくしては生きていけません、集会室などを使いやすくしたいと思っているんですよ」と。その取り組みの場に、親子のみなさんの参加もあるそうです。このお話のみなさんにも伝えていただきました。

島田さんと同級生の井林です。昭和16年生まれで68歳です。無職で年金生活をしている高齢者ですが、いくつかの子育て支援に関わりをもっています。



ひとつは、民生・児童委員として、児童福祉や子育て支援に関わっています。2つめは、青山のあい・ぽーとステーションで勉強をし、子育て・家族支援者の3級と2級の資格を取り、派遣型一時保育に軸足を置いて、一生懸命頑張っています。3つめは、地元の自治会活動です。特に、私の住んでいるマンションの自治会を作ろうと、ここ何年か取り組んでいます。

私は、6年前に港区三田から芝浦4丁目に引っ越しました。南向きの大きなガラス戸から燦々と陽が注ぎ、小さいながらも富士山が見えて大変満足し、ここが終の棲家だと思っています。

ただ、以前の所に比べてあいさつが少ないのが気になります。エレベーターと一緒に乗り合わせた子ども連れのお母さんにあいさつをしようかと、視線を合わせようと思いますが意識的にはずれます。「何とかしなければ」というのが発端となり、たまたま管理組合の理事の話があったので、これ幸いと引き受けました。

理事を1年間やり、2年目に副理事長まで引き受けましたが、少し道が違うので2年で辞めました。自治会活動が不十分なので、3年目に自治委員会を立ち上げました。まだ自治会にはなっていませんが、その委員会の委員長も引き受けて今年で2年目、地元との関わりをもって4年目になります。

1月17日曜日、マンションで初めて新年会を催しました。暮れに、私が作ったピラを張り出し、一番下に、「お子様ランチも度度します」と書きました。初めての企画でしたが、32人の親に6人の子ども、90歳のおばあちゃんから1歳の幼い子ども連れの家族まで、大変にぎやかに新年会を行うことができました。

その時に皆さんから、一言ずつあいさつをしてもらいました。最初にあいさつをした人は、私と同年齢昭和16年7月生まれの男性でした。彼は、囲碁が得意で、芝浦アイランド児童高齢者交流プラザの囲碁サロンで囲碁を教えながら楽しんでいます。「近々子どもたちに囲碁を教えて、子どもと一緒に囲碁サロンを大きくしたい」という彼の話を聞き、思わず大きな拍手をしました。

こういう人たちをたくさん仲間に入れて活動すれば、自治会もすぐにでき上がるのではないかと思います。同じような人たちが、地域の中にもたくさんいると思うので、ぜひそんな目線で周りを見てほしいと思います。

今日のテーマの「つながりの輪をひろげたいなあ、まちに顔見知りがあると安心できるね」は、私がいつも感じていることです。高齢者のいきいきサロンも子育てサロンも、年齢に差はあっても、テーマそのものは非常によく似ていて根底は一緒だとつくづく感じます。今日はそれを伝えたいと思いました。

すみっこ文庫

報告者：荒澤経子さん

すみっこ文庫は、荒澤さんのご自宅で土曜日に開かれています。近くのお子さんや保護者の方々とつながりを長くもたれてきています。現在は、シニアのみなさんによる読み聞かせの会読み手の勉強会も行っています。子どもたちに本と仲良くなってほしい、シニアたちがたのしく活躍できるように、、、荒澤さんのそんな想いをみなさんにも伝えていただきました。

港区南青山、乃木坂近くにあるすみっこ文庫は、地域の子どもたちが絵本を楽しめるように1999年に開設しました。土曜日だけ利用できます。

(ビデオ上映)



開設から10年が過ぎ、新たに活動の幅を広げようと、おばちゃん・おじちゃんが、ボランティアで子どもたちに絵本の読み聞かせができれば、と思いました。近所に住んでいるチャレンジコミュニティ大学2期生の方に相談したところ、クラスの人たちに声がけをしてくれました。

昨年のクリスマスに、おばちゃん・おじちゃんは、クリスマスの絵本を読みました。来月からは、詩人覚和歌子先生に指導してもらい、年内に発表会をしたいと願っています。いずれは希望する地域の施設、乳児院、保育園、児童館などへ移動文庫として、絵本の読み聞かせをしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

私は、現在チャレンジコミュニティ大学の3期生です。1人の顔見知りからたくさんの顔見知りができたことを幸せに思います。



すみっこ文庫

土曜日の午後2時から4時

たのしい本をいろいろそろえました。お話し会やイベントを定期的に開いています。ぜひ、鑑賞して、お話しに来て下さい。

☎03-3408-3161

港区南青山1-19-2
(乃木坂のちかく)

大人の「絵本の読み聞かせの会」は
第4土曜日の午後10時から12時です。



まちのいろいろな人たちの取り組み

三田地区まちぐるみ大運動会

報告者：黒川健治さん

企画メンバーの数々が、町会対抗で競技するこのまちぐるみ大運動会がどんなにいいか、を語っていました。地域のつながりが大事だとわかっている、他地区から移ってきて子育てしている親子には、案外地元の人たちの中に入っていくと難しく思ってしまう親子もいます。町会等のイベントがより参加しやすいものであってほしい、子育て中のママたちの声です。みなさんに楽しまれている大運動会の仕掛け人にお話を伺いました。

「まちぐるみ大運動会のことを話してほしい」と言われて来ました。私は、この運動会の盛り上げ委員なので、今日ここで話すことを非常にうれしく思います。



三田地区まちぐるみ大運動会は、今までに37回行われていました。今年6月に港区スポーツセンターで第38回が行われます。選挙があるため、日にちはまだ決まっていますが、必ず開催しますのでよろしくお願いします。

主催は、三田一丁目町会、新門前睦会、三田二丁目一交會、三田綱町自治会、三田慶應町会、芝三丁目松本町会、北四国町会、三田寺町町会、三田台町会、三田豊岡町会、松坂町会、伊皿子自治会、新広尾古川町会、芝五丁目町会、松ヶ丘会、三田慶南町会、和城会です。

協賛は、和太鼓や有志で参加の御田小学校、三田中学校、三小学校、赤羽幼稚園及びPTAの人たちです。

この地区に住んでいる人たち、働いている人たちは、だれでも参加できます。幼児から子ども、昔子どもだった人たち約2千人が参加して盛大に行われます。入場する時に審査があるわけではなく、地区外の人にもブルーシートを用意しています。おいしい弁当や、子どもから大人まで楽しめるゲームもたくさんあるので、ぜひ参加してください。

運動会の歴史ですが、統合する前の港中学校PTA会長さんから、「みんなでやるゲームはないか」という提案があり、

3) はじまっているよ！地域のつながり創り

第1回運動会は港中学校のグラウンドでやりました。それ以後は、慶應義塾大学のバスケットボール・コーチを呼んで、慶應義塾大学のグラウンドでやりました。開催時期が6月のため雨で2回中止になりました。地区委員会をはじめ、町会の人たちの準備が非常に大変なので、最近は雨でもできるスポーツセンターで行っています。

以前は、非常に対抗意識が強く、リレーなどは大学の競走部や陸上部の人が来てやっていましたが、それはあまりよくないということで、今では玉入れや縄跳びが対抗ゲームになっています。

この運動会の開催のために、各町会長をはじめ、PTAなど大勢の人が何回も会合をするので顔なじみになります。それが非常にいいと思います。



三田地区まちぐるみ大運動会

私の同業者が、15年前の地震で全滅になりました。私が見舞いに行った時に、「地域の人たちももっとつき合いをしておけばよかった。それが非常に残念だ」と、彼は言っていました。その点から言うと、まちぐるみ大運動会は地域のつながりを強くします。これからも立場上できる限り続けていきたいと思えます。私がびっくりするぐらい、ブルーシートにたくさん来てください。待っています。



三田地区まちぐるみ大運動会



三田地区まちぐるみ大運動会

白金志田町倶楽部

報告者：山田 聡さん

保護者ではないまちの人たちが学校に行って授業参観している、そんな話が企画メンバーから紹介されました。たしかに学校は公開されているし、まちの人たちが子どもたちの顔を憶えてくれたらいいね、と企画メンバーは受け止めました。そんなまちぐるみで子どもを見守ってくれる人たちにお話を伺いました。実際には、今回の報告はほんの一部のようで、このまちを愛する人たちのつながり創りの物語は果てしなく続きそうです。

白金志田町倶楽部は、白金高輪を中心に活動しています。白金高輪駅は、再開発が進み、新しい住宅がかなり建っています。もともとは町工場が多かったのですが、いろいろな人が入ってきて、「地域で会っても、あいさつがなくなってしまった」ということを憂えた50代中心の地元の青年会が始まりました。



子育て支援をやっているわけではなく、「地域をもっと楽しくしよう」ということでやり始めました。お酒の席で生まれた話がどんどん大きくなって、その中に、地域のつながりということで子どもたちのことも含まれていきました。

約140人のメンバーは、20代から50代で、職業も、町工場の経営者から六本木のヘアサロンのメーキャップアーティスト、和太鼓奏者など多岐にわたっています。

中には、私のように、白金には全く関係なかった人もいます。実は、私は、横浜出身で現住所も横浜ですが、白金でふらふらしていたら、たまたま流れ着いて活動を手伝うことになり白金の地域に根付きました。

私たちの子育てに関する活動テーマは、主に2つです。図書室奉仕と突然授業参観です。地元の小学校の図書室が、毎週水曜日職員の休みの関係で開けないと聞き、大人がいれば開くことができるということで、私共のメンバーが、子どもたちのためになるなら、とやり始めました。



突然授業参観は、図書館奉仕から派生しました。学校に地域の大人が入るようになり、授業中なのに騒いでいるクラスがあるのをたまたま見ました。授業参観の時は、子どもたちも授業参観のスイッチが入っているので、静かにお利口に聞いていますが、突然教室に入ってみると意外とそうではありません。それを発見したメンバーからの発案で、「先生に断って、突然見に行こうじゃないか」ということになりました。

授業参観メンバーには、子どもをもたない地域の大人たちも含まれています。もちろん、私も行きました。地域に住んでも、大人は外に働きに出ます。地域にあるのは、その地域で働いている人たちの目なので、その人たちにも学校の中を見てもらったり、子どもたちの顔を覚えてもらうことが大事

だということで、いろいろな人たちが地域のいろいろな学校へ行って活動をしています。これまでに3校ぐらいに行きました。

今は騒いでいる学校がなくなったこともあり、少し活動を抑えています。また必要に応じ、いろいろな活動を展開していきたいと思います。

毎年5月に、シロカネ・グローバル・フェスタというお祭りをやりますので、ぜひ来てください。

芝の家

報告者：坂倉杏介さん

芝の家は、芝地区総合支所と慶應義塾大学との共同による地域のみなさんの居場所です。企画メンバーほか子育てママたちから、芝の家があちこちにあったらいいなという声を聞くようになりました。2008年度懇談会で提案したオープンスペースのイメージにきわめて近いようです。芝の家があちこちでできるためには、地域の私たちは何をしたらよいでしょう？慶應義塾大学側のスタッフ坂倉さんから話を伺いました。

慶應義塾大学の坂倉です。芝の家は、港区芝地区総合支所のコミュニティを作ろうという事業の拠点です。ご近所同士の気楽な関わり合いや助け合いができる環境を整えることで、子どもから子育て中のお母さん・お父さんたち、お年寄りまでが、安心して暮らせるまちの環境を作ろうという事業です。2008年10月にオープンし、運営は慶應義塾大学と港区が共同で手掛けています。



芝の家は、ここで出会ったり話をしたりする、近所同士の関わり場の場として作っています。できるだけ人が入って来やすいように、通りに面して縁側があり、大きな扉があります。

オープンと同時に、慶應義塾大学と港区の包括協定の調印式を芝の家でしました。協定は、ちゃぶ台協定と呼んでいます。港区の武井区長と慶應義塾大学の安西前塾長のトップ同士が、靴を脱いでちゃぶ台で仲よく調印をしています。

芝の家は、週6日間オープンし、週の半分が大人やお年寄り向けのコミュニティ喫茶として、お茶を飲んで話がしやすい

場になっています。水・金・土曜日は、子どもがみんなで自由に遊べる場作りをしています。利用者層は、小学生を中心とする子どもたち、小学生のお母さん、未就学児の幼稚園児とそのお母さん、大人やお年寄り、近所で働いている会社員から学生、留学生まで、いろいろな人たちが来ています。

子どもがベーゴマをしたり、たまには外で遊んだりします。ワークショップ等の企画がある日以外は、日々起こることを大切に、子どもがやりたいように過ごしてもらっています。たまにおばあちゃんが来て、裁縫や紙芝居を教えてください、スタッフが季節ごとに、「こういうのをちょっと作ってみようか」と提案して、よもぎ団子を作ったりします。

一方大人の日には、お年寄りが縁側に腰かけて、お茶を飲みながらおしゃべりしたり、室内で弁当を食べたり、お茶を飲んだりといういろいろな過ごし方をしています。

子どもの日、大人の日と言いましたが、必ずしも子どもだけ、大人だけしかないというわけではなく、大人の日に子どもが気軽に遊びに来て、大人と関わるのが日常的に起こっています。

子育てという視点から言うと、学年を超えて、卒業生や世代の違う人と一緒に遊べる場所になっています。お母さんやお父さんからは、「子どもを知っている人がまちに増えると非常に安心だ」という声があります。

たまにワークショップをやっています。音のワークショップや写真のワークショップ、アートのワークショップ、近所にある戸板女子短期大学の学生がワークショップをやることもあります。近所のおじさんが、スポーツチャンバラ教室を開いたり、地元の町会長も来ています。レコードコンサートは主に大人向けですが、子どもも結構参加しています。近所のおばあちゃんが朗読会を催したり、みんなでご飯をもち寄って食事会をする時に、近所のお年寄りに、「この子は、どこの子だよ」と紹介したりします。



去年の秋に1周年記念として、子どもたちも一緒にお祭りに参加して、子どもたちがミニFM局の放送番組を作ったり、ネイルサロンの店をやったりしました。そんな形で、いろいろな人たちと毎日楽しくやっています。



4) みんなで聞こう・いっしょに話そう(参加者によるラウンドミーティング)

ママ&パパ発メッセージや10組の取り組み報告を聞いた後、
多様な参加者同士が、小さなグループをつかって、
輪になって話しました。

ラウンドミーティング

「3つのお約束」

- ★ どんどん話をしましょう
- ★ 他の人の話も聴きましょう
- ★ アメをなめながら気楽に
お話ししましょう

ラウンドミーティングは、
左記の「3つのお約束」のもと、
以下のように進めました。

- お近くの方4~5人と
小さなグループをつくりました。
- 感想や意見を、立場を表す色の
紙に各自が書きました。
- 全員がひととおり書き終えたら、
自己紹介をして、書いた感想や意見を
紹介しあいました。

◆ 感想や意見は、以下のマークでお立場を表しています。

子育て中の
参加者の
感想・意見です。

地域活動者
NPOのみなさんの
感想・意見です。

子育て支援関係機関の
みなさんの
感想・意見です。

その他の
みなさんの
感想・意見です。

書き残された
たくさんの
感想や意見

日々のつながり・地域で子育てのこと



本当にそうだね♪

子育て中

- ♥ 子どもがきっかけになったりする!
- ♥ つながりが広がればいいなあ~
- ♥ 支え支えあってお互いさま
- ♥ 地域のつながりを考えている方がこんなにいるなんて、港区って心強くなって思いました。
- ♥ 数年前に比べたら、多様な施設ができて、知り合いが増えて、よい世の中になった!



地域活動者・NPO

- ♣ 子育てとは、自分育てされているような気がします。
- ♣ 子どもの成長で、人の輪や知りたいたいことも増えてきました。
- ♣ まちに知り合いがいると安心! ぜったいそうだよ!
- ♣ 子育てには、地域が大事。地域をよくしたいなあと思ってNPOをやっています。
- ♣ まちのひとのつながりを作ってくださいっているので安心です。
- ♣ 「つながり」があれば安心、というのは本当。
- ♣ みんなで進めれば、きっと環境は変わる。

子育て支援関係機関

- ♣ 地域の協力や必要性をあらためて感じました。
- ♣ みなさんのチャレンジ精神やパワーに圧巻されました。
- ♣ やっぱ地域のつながりなくして、子育てはできない。
- ♣ 地域でつながる「実感」ある子育て。



その他

- ◆ 子ども会楽しかったなあ
- ◆ 顔見知りって力強い。
- ◆ 自分の子の子育て期だけでなく、それが過ぎて地域がつながりがあるって幸せだと感じました。
- ◆ 幼児だけが対象ではなかった! いろいろな世代の人が幅広く活動して、本当の意味での地域のつながりを感じた。
- ◆ 顔をおぼえてもらい、下の名前前で呼んでもらえるのってすごく嬉しい!
- ◆ 年齢をこえたつながりって素敵だなあ~動くことの大切さ!



日々のつながり・地域で子育てのこと

こうしたいね♪

子育て中

- ♥自分を飾らないで、できる範囲のふれあいで十分なのだ。
- ♥自分で行える活動というのに、とても興味をもちました。
- ♥あいさつがスタート！まずは地域に出て行ってあいさつをして顔見知りを作る。
- ♥地域とのつながり方がわかってよかった。商店会で買い物しようと思います。



地域活動者・NPO

- ♣はじめの一步が出ないので声をかけましょう。
- ♣地域でいつもあいさつできるといいと思う。
- ♣こんにちは、元気ですか、新しいお店ができた、子どもしつけは？医者情報、、、など話したい。

その他

- ◆地域に出かけよう！
- ◆育児を楽しもう！
- ◆「地域のつながり創り」ってむずかしいことじゃなく、一人ひとりの思いから始まっているんだなと感じました。
- ◆「あいさつ」から始められる。

子育て支援関係機関

- ♣つながりにくいのは、私のような者。自分から出ていかないとむずかしい？
- ♣何回かのあいさつを通じ、顔見知りになると仲よくなれるね。
- ♣住んでいるマンションの中で会う人には、とにかく「おはようございます！」「こんにちは！」と声をかけています。
- ♣私も地域の一員になりたい！
- ♣笑顔であいさつ。
- ♣自分から声をかけることも大切。
- ♣コミュニティづくりも大切ですが、子どもの教育も大事なことです。3つ子の魂百までもということわざもありますから、「こんにちは」「ありがとう」とかね。
- ♣父の会 Daddy's DAY というイベントを仕掛けています。0~3歳児対象の子育て支援の施設です。大人・小学生など年齢の差のある方々との関わりをもっといきたいです。

こうなったらいいね♪

子育て中

- ♥パパも育児に積極的に参加したいという気持ちがあるものの、どうすればよいかわからないみたいなので、まずはパパ友を作って、パパたちにも育児(あそびとかね)にとりこんでほしい。
- ♥忙しい男性も子育てに関わりたいたいと思っている。でも関わり方がわからない？ハウツー本をヒマラヤスギの会が出してくれたらいいね！

地域活動者・NPO

- ♣子どもにいろいろな年代に接する機会をもたせたい。
- ♣子育て支援は、企業・行政・住民・学校たちが支えたい。
- ♣旅行に行ったら深く関わられるかも。

子育て支援関係機関

- ♣年齢にかかわらず交流できたらいいね。
- ♣地域の中でつながりをたくさんもてたらいいね。

その他

- ◆先輩方とのつながりの機会と場所の情報がほしい。
- ◆地元の方々やさしく受け入れてください。
- ◆もう少し地域のコトがハナシに出るとヨイ。
- ◆絆の再構築。

日々のつながり・地域で子育ての課題だね

子育て中

- ♥住んでいる人々と働きに来ている人々とのつながりをつくること重要！
- ♥人を疑う教育、道を聞かれても答ええない。
- ♥この会場に子育て世代少ないな～
- ♥子育て中のママ/パパがもっと集まったらいいな～とします。
- ♥2歳になる子どもを育てているが、子育ての相談をしたくても近所にできる人もない。再開発地区に住んでいる。
- ♥多くの人々が住み様々な世代が居るが交流している様子が見られない。何か突破口はない？作れない？
- ♥実家を離れて15年、近くに友だちっていなかったなと改めて感じました。

子育て支援関係機関

- ♣夫婦で子育て、どうしたらもっとしやすくなるかな？

地域活動者・NPO

- ♣「地域とつながる」ってどういうこと？どうすればいいのでしょうか？
- ♣他地域から区内に移り住み、また集合住宅の居住も初めて、戸惑いも多く、特に他者との関わりが人によっては迷惑に感じるのでは？
- ♣子育て中の娘・息子がいます。自分の子育て環境との違い、プラス面マイナス面を日々感じています。
- ♣私たちの時代には自然発生的に生まれた近隣とのコミュニケーションの中で解決できたことを、今は作る作業から始めねばならないと感じている。
- ♣急がなくても大丈夫。子育ては忙しい。だからもっと意識して、おちついた時間を作りたい。

その他

- ◆いざというとき(地震など)どうすればよいか不安。ふだんつきあいがないので。
- ◆地域のつながり、当事者・現場の声がないと、地域はよく変えられない。
- ◆人の出入りが激しい中、新しい人をどう巻き込んでいくか。
- ◆出て来れない人をどう巻き込んでいくか。
- ◆学校が荒れているが、地域の問題であり、学校・親の問題ではない。
- ◆住民と会社と人との関わり(昼間人口、夜間人口)
- ◆モンスターペアレント、親の意識。
- ◆保育園と子ども自身の目線。
- ◆子育ての問題、子どもにとってはどうかという視点。地域の中での父親、男性の関わり方。

4) みんなで聞こう・いっしょに話そう(参加者によるラウンドミーティング)

書き残された
たくさんの
感想や意見

つながりをひろげる居場所のこと

子育て中

- ♥「芝の家」のようなものが近所にあるとよいなと思った。
- ♥町会ごとに「芝の家」があったらいいな!
- ♥「芝の家」に行ってみたくと思った。
- ♥平日は働いているので、土日開いている「芝の家」「すみっこ文庫」に行きたいです。
- ♥「芝の家」のように子連れでふらりと寄れるような場所が近所にあるといいな。子連れも近所さんと親しくしたいのです。一緒に子どもを見守ってほしいのです。

地域活動者・NPO

- ♣ママたちが気軽に集まれる場を作りたいと思っています。
- ♣「芝の家」の管理・運営は誰が?
- ♣地域の方が運営する保育園があったらよいと思います。



子育て支援関係機関

- ♣つながり、居場所づくりの一員として、もっと地域に溶け込みたいです



つながりをひろげる催しのこと

子育て中

- ♥「三田地区まちぐるみ大運動会」のように、地区が活性化されるような企画ができればいいなあ。
- ♥地域の人たちをどのように盛り上げていけるか。
- ♥まちづくりの塾、語り部。
- ♥小学校に行ってみたくと思い、「白金志田町倶楽部」の方の連絡先をもらいました。



地域活動者・NPO

- ♣「三田地区まちぐるみ大運動会」知っていたが、部外者も参加できることがわかり、参加したいと思いました。
- ♣現在スポーツサークルの指導をしていますが、子育てを終えたママさんが多い中、まだまだ中の若いママにやらせてあげたいです。



子育て支援関係機関

- ♣以前勤めていた保育園の近所では、毎年必ずハロウィンの行事が行われます。その地域全体がハロウィンであふれていました。
- ♣お祭りっていいですね。運動会もいいですね。参加しやすいですよ。
- ♣「まちぐるみ大運動会」ぜひ利用者さんといっしょに参加したいです。
- ♣私が住んでる新橋は、こいち祭がありますが、駅前の広場をもう少し活用できたらよいと思います。きょう参加して大変勉強になりました。

居場所・催しの課題だね

子育て中

- ♥子どものいない人と子育て世代とが、交流する場の設置の難しさ。
- ♥いろいろな子育て支援・地域交流がありましたが、歩ける前の子どもが交流できるものはやはり少ない。そんな子を連れて行っているのが躊躇することがあります。

地域活動者・NPO

- ♣様々な時間帯や曜日に、催しがあればいい。



つながり創りの活動のこと

いろいろあるね♪

子育て中

- ♥きょうの取り組み報告は、男性の声もあり、年齢の幅も広く、目からウロコのアイデアをGETできた。
- ♥地域のつながりが港区にはあるんだと驚きました。他区に比べて、つながりが薄いイメージがあったので。
- ♥港区にこれだけバリエーション豊かな人たちが子育て支援に関わりをもっていることを知って驚きました。
- ♥いろいろな活動をされている方がいるんだと、しみじみ感じました。
- ♥いろいろな活動があることを知り、有意義な会でした。
- ♥子育てをしている中で地域のつながりが大切と思いつつ、なかなかきっかけがつかめずにいました。
- ♥いろいろな会があることを知り、よかったなあと思いました。

地域活動者・NPO

- ♣いろいろな活動をしている人がいるんだなと思いました。地区外の活動とのつながりも大きなあ。
- ♣家を開放して文庫読み聞かせ等に感心しました。
- ♣10人の方のお話が楽しかった。
- ♣こんなに多くの組織があることにびっくりしました。前より増えたなあ、元々あったのか？
- ♣濃く興味深い話ばかりだが、聴いていて疲れてしまった。なぜだろう？引っ張られる気がして。
- ♣文庫の活動にとっても惹かれた。子どもを引っ張らない感じがした。
- ♣初めて参加したが、いろいろなグループがあることがわかりました。



子育て支援関係機関

- ♣種々なグループが、それぞれできることをやっていることを初めて参加して新鮮に感じました。
- ♣各地域の特色が出ている。いろいろな年代の方が参加。父親の会の存在。
- ♣港区で、こんなにたくさんの子育て支援をやっているグループがあるのにびっくりしました！
- ♣港区に勤めて25年！地域のつながりがこんなにあるなんてびっくり！知らないと損する！
- ♣きょうの話をきいて、見てみたい・行ってみたい・参加したいと思うことばかりでした。
- ♣どんなことも続けていくのは大変。活動継続の智慧があると思った（新しく入る人が入りやすい工夫など）
- ♣いろいろな活動をしている人がいて、たのしい。

その他

- ◆いろいろな活動をしているグループがあることにびっくり+よろこび。
- ◆その方々を繋げていこうという動きにさらによろこび。ともかくお互いが刺激される場と時を共有された事実！
- ◆グループごとの発表を見て、改めて地域のつながりの場へ出ていきたいと思いました。
- ◆活動サークルの数が多くてびっくり。



こんなことやっています♪

地域活動者・NPO

- ♣男女平等参画推進委員をしています。区の子育て支援や女性の施策にぜひ声を出してください。
- ♣地域で子育て支援活動をしています。幼稚園等でお手伝いあれば参加しています
- ♣民生委員のたんぼぼクラブで、月1度0-2歳位の親子で話す会をしています。



4) みんなで聞こう・いっしょに話そう(参加者によるラウンドミーティング)

書き残された
たくさんの
感想や意見

つながり創りの活動のこと

やっていきたいです♪

子育て中

- ♥娘を産んで、地域のつながりに興味があり参加しました。いろいろな人が取り組みを行っていて、自分もこの地区を盛り上げたいと思いました。
- ♥子育てが離れたら何をやろうと、何かできることあるかなと思っています。
- ♥「すみっこ文庫」のように自身の得意を活かして、力をお貸しできたらいいな。でも何ができるかな。

地域活動者・NPO

- ♣私が子育てしていた30年前いろいろな人に助けもらった。ママたちのために役立ちたいな。
- ♣これからいろいろ考え参加していきたい。同じ気持ちの仲間とネットワークをつなげたい。
- ♣ボク参加していますが、子どもいません！ネットワーク(つながり)ってだじだんと思います。キーワードは、楽しいこと・楽しむこと。

子育て支援関係機関

- ♣年齢・学年・地域を越えて活動していきたい。

その他

- ◆自分が今できることを見つけたい！と思った。
- ◆私も子どもに関わっていきたい。

あったらいいなあ♪

子育て中

- ♥働くママがこれだけ多い(待機児童が多いので)、そういうママもパパも参加できるものが、もっとあればいいなあ。

地域活動者・NPO

- ♣グループ活動の孤立化を防ぐために、一番身近な町会を味方につけていくのが望ましいと考えます。
- ♣区議会議員にも積極的に仕事してもらいましょう。

子育て支援関係機関

- ♣初めて知ったつながりの輪がたくさんあった。きょうの集いをきっかけに、グループ同士の交流も始まるかな？
- ♣グループとグループが、情報交換できるような場があれば活用できそう。

その他

- ◆私の地域は、とくに地域でつながろうみたいな活動はない。あったら毎日がたのしくなりそう。安心も。

おしえてほしい

地域活動者・NPO

- ♣子育ての悩み、母親としてだけでなく、女性としての悩み、どうしたら相談につなげられるかな？
- ♣子育て支援施設に求められていることをもっと聞きたい。こういう場がチャンス。
- ♣グループ支援のアドバイスをください。
- ♣ボランティアの方々の活動、どんな問題点があるのか？(日程、交通費など)

その他

- ◆つながりの先、どうしていくの？



つながり創りの活動の課題だね

子育て中

- ♥中間支援。個々の活動・団体を繋げることの重要性。

地域活動者・NPO

- ♣町会・自治会の活動が少ない。
- ♣住民への告知方法をどうするか。
- ♣一歩が未だに踏み出しにくい。このグループは大丈夫？とか。

その他

- ◆麻布地区に少ない？
- ◆サポートはできるけど率先して立ち上げができない。だから誰かがしてくれれば。
- ◆グループの存在は知っていたけど、顔が見えないとつながりにくいので、顔合わせは重要。
- ◆自分の地域も何かやっているはず。だけど何も知らないことを痛感。
- ◆官民の連携、大学・企業の連携。





もっと知りたい

子育て中

- ♥ インターナショナルな区なので、外国の方の意見やその支援の状況を知りたい。
- ♥ 同じくらいの母親たちの目先の関心は保育園が多いが、その先どうなっていくのか不安。小学校・中学校以上のイメージがわからない。

地域活動者・NPO

- ♣ 中高生と、学生後の社会人一年生に興味があります。
- ♣ 学童のお子さんたちがどんな環境におかれているのを知りたい。

子育て支援関係機関

- ♣ 港区は子どもたちのふるさと？
- ♣ NPOは仕事？ボランティアは奉仕？中間はないの？



懇談会への提案・要望

子育て中

- ♥ 港区ふるさとづくり、ここも故郷です。
- ♥ 世の中の人々が皆ここに集まった人みたいだったらいい。ここに来た人が、来ていない人に伝えていきましょう。

その他

- ◆ 地域へのお知らせ、もっとしないともらいたくない！

地域活動者・NPO

- ♣ 思春期の理論的バックボーンの入った活動を期待する。
- ♣ 子育て中・妊娠中の人の参加を増やしたい！
- ♣ 飲み会してみたい。
- ♣ 年に一度のこの場が、「必要性の主張」ではなく、「当然必要だということの確認」の場であってほしい。



全体的な感想

子育て中

- ♥ 年代や性別を超えて、さまざまな意見が伺えて楽しかったです。
- ♥ 単純に多くの人と知り合いになれてうれしい。
- ♥ 今年は男性の参加者が多くてよかったです。
- ♥ 男性の出席者が案外多かった。

子育て支援関係機関

- ♣ ママ・パパの大きなパワーを感じました。シルバー世代の方々がたくさん助けてくださっていて、港区パワーはすごいと思った。
- ♣ いそがしく働いている父母世代以外の、学生やシルバー世代が子育て支援と一緒にしていることが楽しい。

その他

- ◆ 住民のパワーをとっても感じました。
- ◆ 地域力が高い！
- ◆ 学生でも参加できるんだ、...
- ◆ パパのパワー、昨年との一番の違いは、パパたちの元気なメッセージをいただけたこと。皆さんのバイタリティに驚き、嬉しくなりました。

地域活動者・NPO

- ♣ 若いお母様方の元気と明るさに、昔育った私は驚き入りました。
- ♣ 地域のが、年々大きくなっているのを実感できました。
- ♣ 縦から横へのつながりを感じました。
- ♣ いろいろな世代のつながりを感じ、継続の大切さを痛感。
- ♣ またやりたい。年1回以上やりたい。また会いたい。
- ♣ 出会えてよかった！つながれる！
- ♣ 懇談会のあとに懇親会をやったら？
- ♣ ママとパパという役割だけだとしんどいところもある。
- ♣ 前回参加したときより、幅広いグループの参加者があり、大変よいことと思いました。



4) みんなで聞こう・いっしょに話そう(参加者によるラウンドミーティング)

芝の家の方、助産師さん、学生と同じグループでした。助産師さんから、子育て中のママの参加が少ないという声がありました。また、つながりのために懇談会が年2回あるといい、1年後にしか会えないのはいかがでしょうか、お茶飲みながらの懇親会もほしいね、という話も出ました。芝の家の方と一緒にだったので、芝の家があちこちでできるにはどうしたらいいのかな？ときいてみたりしました。
(港南在住：4歳と6歳幼稚園児のママ)

私のグループは、ボランティアセンターの方、(仮)お台場おっちゃんの会、NPOの立場で子どもを応援している方、子ども家庭支援センターの方で、途中から三世同居されているパパが加わりました。そのパパの、「自分たちの世代もつながりをもっていかないとね。でも子どもを幼稚園に送る時、他の方とどんな話をしたらいいか」という話が印象的でした。また、この会に子育て中の方が、何か求めて参加してくれた時に応えられているのが気に入りました。
(三田在住：5歳保育園児のママ)

企画メンバーが参加したグループでは、こんな話をしました。

自己紹介で終わってしまったけど、それぞれにいろいろな活動をしていることがわかった。それらが、どうしたらつながっていきけるんだろう？という話になりました。
(白金在住：中学生と2歳保育園児のパパ)

私のグループは、娘さんにお子さんができるのでサービス情報などを聞きたくていらした年配の方のほか、子育てサロンをしている方、応援隊卒業生や子ども家庭支援センター職員の方でした。子育てを終わった方が、今のママたちのために子育てサロンを開いているときいて、がんばっていらっしゃるなあと思いました。
(港南在住：小学生のママ)

私のグループは、取り組み報告された島田さん、民生委員やNPOの方と、ママ・パパ世代でした。子どもの手が離れつつあるので何かやろうというママと、コミュニティサロンの活動に取り組む島田さんが活発に情報交換されていました。
(白金台在住：3歳児と6歳幼稚園児のママ)

白金志田町倶楽部、ヒマラヤスギの会、子育てひろばの方、それぞれの代表の方と一緒に、懇談会の感想、日々の活動のお話、これからの展望を伺いました。それぞれが、まちを愛し子ども達をみんなで育てようという心が熱く伝わってきました。同時に、運営の難しさ、世代の違い、生活環境の違い、そもそも育児支援に興味のない人々との関わり、長く続けていくことの難しさ、ボランティア活動だが仲間の輪を広げていき、仕事や権限を任せることも大事で、一人で背負い込もうとすると立ち行かなくなる、などの興味深い経験談を伺いました。
(白金台在住：1歳児と6歳幼稚園児のママ)

民生委員2人、学生とママのグループでした。男性が子育てに関われるのはいいね、でも忙しいパパはどうなのだろう？という話に。忙しいパパなりに関われる工夫を伝えられるとよいねと話しました。民生委員さんから、若いママにどう声をかけたいか？という話が出ました。センターで大きく声から、「ごくろうさま。子育てってたいへんよね」で十分では？と言うと、グループ内の若いママも「そうそう」と。「なんだそんなことでいいの」と民生委員さん。いろいろな世代でこの会がもててよかったね、とみんなで話しました。
(子ども家庭支援センタースタッフ)

2009年度懇談会の後、企画メンバーはこんなことを話し、考えました・・・

つながりをひろげる、 こんな“よさ”をもつ居場所・ オープンスペースがふえるといいなあ

『芝の家』が近くにあったらいいなあ… この声がたくさん残されました。それは、こんな“よさ”をもつ居場所・オープンスペースを多くの人が求めているんだね、だったら、これからできる公共施設に、可能なら既存の施設にも、こうした“よさ”を求めていきたいねと話しました。でも、建物のオープンさは、安全性とウラハラの関係かも、という意見も出ました。

「芝の家」の“よさ”として挙がったこと

- ・住宅のある地区の中にある。
- ・建物のオープンさ。
- ・ビルの中に入って行かなくてよい。
- ・「遊んでいけない？」って中から声をかけてくれる。
- ・乳幼児親子もダメではない。
- ・学生がいるのがよい。
- ・おばちゃん・おじちゃんが入り出しているのがいい。
- ・サラリーマンがランチしているのがオモシロイ。
- ・平日働いている親も土曜日に子連れで行ける。

懇談会でできたつながりを 発展させたいね

地域こそって子育て懇談会が、活動者同士、活動者と子育て当事者との出会いの場になっていることが改めてわかりました。年2回開催を！とか、懇親会開催を！という声もありました。そこで、メーリングリストの活用や活動者の情報交換の場を設けよう！ということになりました。

「みなと子育てメーリングリスト」

年1回の懇談会だけではなく、日々のつながり充実のため、みなと子育てネットWa.Wa.Waによるメーリングリストを、多数の方と共有し、日常の情報交換に活用しようということになりました(登録方法はP7へ)。

町会・自治会・商店会 とつながりたいね

町会に入りたいという話、つながりは商店会から～という話など、町会・自治会・商店会に関わりたいという話がありました。でも、お祭りの担い手側にあつまるのは、たやすくなさそう。何か、参加しやすくなる工夫があるといいね、どうしたら焼きそば焼く方が楽しくなるか？という話も出ました。

こそってネットワーク会議(仮称) 開催予定

これまで、地域こそって子育て懇談会は、さまざまな団体・NPO・事業所等の方々にご参加いただきました。でも、お互いの活動について知り合えるだけの時間はなかったかもしれません。そこで、2010年度から、子育て支援・子育て応援に関わる関係者のためのネットワーク会議を別立てで開催しようと思います。

パパの子育てへの関わりや 活動の機会がふえるといいなあ

今回は、パパたちのグループの活動報告もあり、懇談会への男性の参加が例年より増えました。参加のママから、どうしたらパパ友できる？の投げかけ、子育て支援施設からパパたちへのプログラム紹介がありました。懇談会后、パパが活動の場にひとりやってこくことは考えにくい、ママががんばっている姿に背中を押されることが圧倒的では？との意見がありました。日頃の家族の話・親子の話を、ざっくばらんにできる機会があるとイイかも、という意見も出ました。パパが店主さんのお店で懇親会やりたいというアイデアも出ました。子育てパパさんが店主のお店情報募集します！

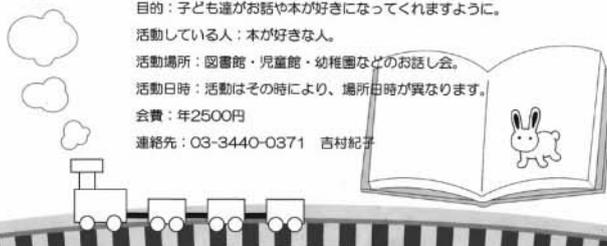
子育て当事者が懇談会に もっと参加してくれるといいね

例年子育て中の方が少なかったね、が反省にのぼります。今年も出ました。企画メンバーを入れて19%の方が子育て当事者でした。親子で参加できる催しもくっつけてはどうか、別立ての催しで、親子が集い子育て当事者同士でざっくばらんに話す場面をつくってはどうか、などのアイデアが出ました。

★きしゃポッポ

おはなしの会
きしゃポッポ

目的：子ども達がお話や本が好になってくれますように。
活動している人：本が好きなお話。
活動場所：図書館・児童館・幼稚園などのお話し会。
活動日時：活動はその時により、場所日時が異なります。
会費：年2500円
連絡先：03-3440-0371 吉村紀子



★Kids English ☆ Little Star

Kids English Little☆Star



2009年ハロウィンレッスンにて

Kids English Little☆Starは英語の歌や手遊びを通して親子で英語を楽しむことを目的としたサークルです

活動場所：みなとキッズサポートセンター2階 地域活動室 活動日時：毎月最終土曜日（または日曜）11:00-12:00
対象：3歳児前後の親子 入会金 4000円 年会費 500円 会費 1レッスン 500円
連絡先：©Natsuko "Nancy" Sakamoto E-mail: babyenglish2007-littlestar@yahoo.co.jp
☆ただいまクラス定員が一杯のため、新規メンバーの募集はしていません

★クルポンス

クルポンス  クルポンス

http://kurupons.blogspot.com/

なりたち
母体は、港区立高輪幼稚園2006年度卒PTAのOB。
【母子たちが(メンバー全員が男子の)小学生になってほしいな！なんかがやろうぜ！と、2007年に発起しました。】

<活動内容>
主に幼稚園、保育園、児童館、子育て支援施設、子育てサークルのイベント等で活動しています。
公演内容は、軽率のよみかせ・紙芝居・歌と演奏・ダンスやゲームなどで、15～30分程度。
活動にあたっては、見る人も見ても「楽しい」ことを優先しています。
費用は、移動のための交通費をいただけるかと大変助かりますが、応用でまわっております。
屋内外を問わず、今後も発表の場を広く募集中です！

<今後の展望>
「公演にお誘い出したら、そこにおもしろい格好をしたおばちゃんたちがいて、楽器をブクブク鳴らし、ノックルックと歌いながら行進していた。ついに行ったら、おもしろいお話をしてくれた。なかなか良かった。」
・・・というような野外での「グリラ探検」や、保育園などの皆さんが先にまわらせておくような「ハプニング探検」も構想しています。
小学生による乳幼児への読み聞かせも企画したいです。



クルポンスへのご依頼は midorit@po1.dti2.ne.jp かんらぐかり：ミドボン

★さこだ運動遊びクラブ

さこだ運動遊びクラブ

こんにちは😊 体操教室や、リミフを行っています。
先生(講師)は私。おかげにママも...楽しく活動しています。

<対象> 親子クラスは2歳～、幼児クラスは年々増え、大人向けに講師もいてます

<活動場所> おもにスポーツセンター

<活動日時> 月曜日(月2日)※11月22日まで 親子体操 (4月～9月の休) 水曜日(〃) 幼児クラス ※4月～小学生も増えています

<料金等> 月費制で1回1000円前後。他に代理代、経費費が1100円。
(連絡先) 石田 栄 (86回現職体操指導所) TEL/FAX 3471-2250 FAX (7191) Sakae-df.dti.ne.jp

★すみっこ文庫

すみっこ文庫 

土曜日の午後2時から4時

たのしい本をいろいろそろえました。お話し会やイベントを定期的に行っています。ぜひ、電話して、お遊びに来て下さい。

☎03-3408-3161

港区南青山 1-19-2 (乃木坂のちかく)

大人の「絵本の読み聞かせの会」は第4土曜日の午前10時半から12時です。



★台場子育てサロン

台場子育てサロン

子育て中の人たち来て下さい！
いつも子どもの世話で自分の時間もゆっくり食べたい、お茶も飲んでいられたらいい、大人と話したいと思うでしょう。ちねと毎日の気分を変えて下さい。答えが出なくて、言うだけじゃあ気持ちよくならない。自分と違う子育ての悩みを聞いてみましょう。自分だったらどんな風にするかしら？

おんが喜ぶ！
「台場子育てサロン」

白鳥地区のマンション委員会様にて開催しています。お子様と一緒に遊びにいらして下さい。お茶と一緒に飲み会もお待ちしています！！

活動日 毎月第二水曜日 10時30分～12時30分

活動場所 マンション委員会 (1階エントランス側) 住所：港区台場1-3-1100 5-17PAB第三階

参加費 1回 500円

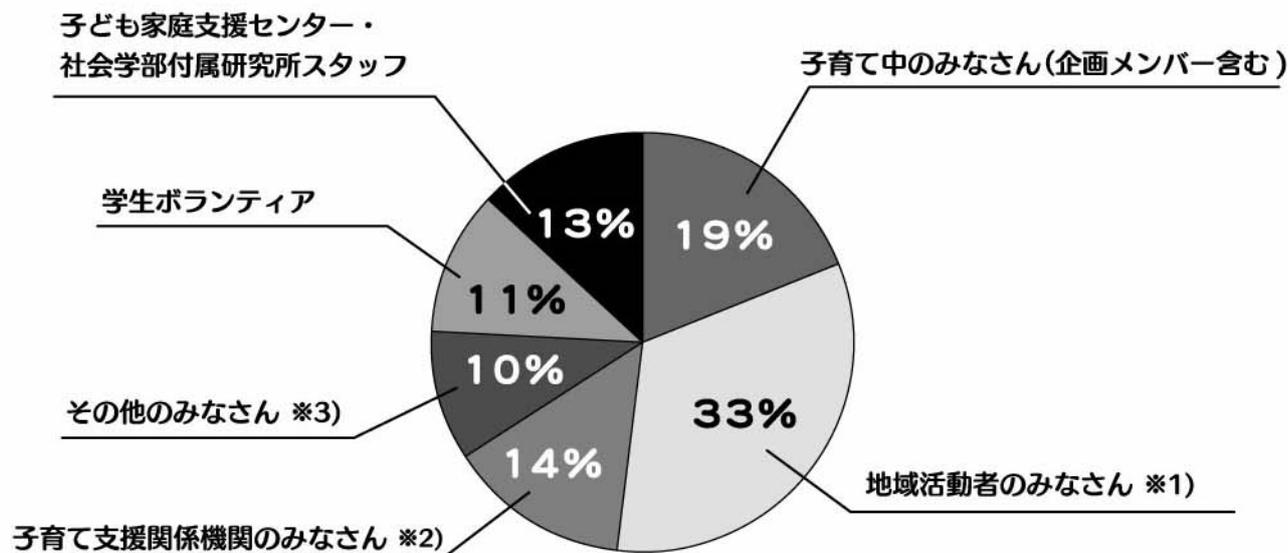
申し込み・問い合わせ 金子 080-6555-4554 kyokaneke@h4.dti2.ne.jp



1
2
3
4
5
6
7
8

4

どんな人たちが参加してくれたのかしら



子育て中のみなさん(企画メンバー含む)・・・	19
地域活動者のみなさん・・・	33
子育て支援関係機関のみなさん・・・	14
その他のみなさん・・・	10
学生ボランティア・・・	11
子ども家庭支援センター・社会学部附属研究所スタッフ・・・	13

※1) 『地域活動者のみなさん』とは
民生・児童委員、子育て・家族支援者
NPO 法人、PTA、子育てグループほか

※2) 『子育て支援関係機関のみなさん』とは
子育てひろば事業者、助産院、男女平等参画センター
社会福祉協議会・ボランティアセンター、行政ほか

※3) 『その他のみなさん』とは
区議会議員、研究者、学生ほか

メッセージカードより

子育て中の方より

今を楽しんで、自然体で様々な活動をされている老若男女の方々の姿を目のあたりにし、希望がもてました。こんな集まりはもっと小さくてもたくさん持ちたいですね。

パパ&ママ発メッセージで子育て当事者の生の声を聞くことができよかったです。地域のつながりは、まずあいさつをして、自分たちを知ってもらうことが第一歩だなと感じました。企画メンバーのみなさん、お疲れさまでした。メッセージを聞いて、ジーンときちやいました。とても良かったです！

それぞれが取り組んでいることを発表できる機会があることは子育てに対する意識を高めあう上で、とても素晴らしいです。たくさん新たな知り合いができました。

応援・参加・協力できること

自分にできることは何だろう、とよく考えます。子どもがまだ小さいですが、尻込みせず、フットワーク軽く、どこへでも出かけていきたいです。

応援・参加・協力できること

編集は協力できると思います

子育て中の方より

子育て当事者の参加が、発表者、関係者をのぞくと少なくなっていて、残念でした。その反面、こんなに支えてくれようとしている方、いっしょに考えていきましょうという方が、多かったということは、とても嬉しかったです。「地域のつながり創り」の時間がもう少し取れればよかったですね！「佐藤さんのお話」は、少しゆつくり伺いたいと思いました。働くママからの発信を入れていただけてよかったです。

いろいろな取り組みを知りました。ただ、子育て中の方が少ないのが残念な感じ。いろいろ知らない人はいるんじゃないのかな。

応援・参加・協力できること

できることならば、半年くらい前に当事者ママ&パパ向けの気軽な集まり、親子一緒におしゃべりを楽しもう「子育てフェスタ(?)」なんてあると当事者には敷居がもっと低くなるような気がします。

応援・参加・協力できること

まもなく2歳になる子どもがいます。専業主婦ですが、社会経験も長く、リサーチ的なことは得意ですので、お役に立てそうなことがあれば声がけしてください。新興住宅地にいますので、新しい波が作れるようなことに役立てばうれしいです。

自分の住む地域以外の方々の取り組みを聞くことができ、興味をもちました。私の住む地区は、自治会はできたものの、まだコミュニティもほとんどなく、今後地域に根ざす温かく熱いむすびつきが生まれたらと感じました。

男の人や地域の人が増えましたね。いろいろな立場の人のお話を聞けていいと思います。多少とつちらかって、さまざまな立場の人を受け入れるふところの深い会であってほしいと願っています。

とても楽しい情報をいただきました。こんなに多くの子育てグループがあることにびっくりしました。もっと情報が行きわたるよう、公園などの掲示板を利用して発信してほしいです。

地域活動者 NPOの みなさんより

地域のつながりの大切さを再認識するとともに、こんなにたくさんの方々が、「地域のつながり」ということを考えているんだなと感じられて、心強かったです。

「継続は力なり」力をぬいてがんばってください。

前回と比べ、グループの幅が広がったと思いました。

現在子育て中の方の生の声をもっと聞きたいと思った。

地域で活動している方たちのことがわかりました。台場に住んでいますが、ムラのような場所で、他の地区と交流するには交通費がかかり出かけられません。小さな地区内だけでも何か役立てそうなことを企画したいと思います。

男性の方々のグループが多くなっていることにおどろきました。

その他の みなさんより

すばらしかったです。毎年の継続、ぜひがんばってください。

引き続きがんばってください。みなさんのバイタリティーでエネルギーもらいました。

地域のおじさん、おばさんも含めた様々な世代の人・様々な立場の人のお話が聞けたのが、とてもリアリティを感じて良かったと思います。自分たちも観客も楽しみながら、という姿勢の懇談会は、とても貴重な特色だと思います。ぜひこれからも先進例としてがんばってください。

1

2

3

4

5

6

7

8

名前

- 1) は、当日の役割
- 2) は、一言感想です。

・ママ&パパメンバー

□ 赤松紀子

- 1) リハーサル参加、パパ&ママ発メッセージの発信、地域別ミーティング
- 2) 企画会議～当日のリハーサル、本番後の後片付けや反省会など、子どもと一緒になかなか本腰を入れて参加できなかったのが心残りですが、皆さんの子育て支援に対する熱い思いに触れることができ、触発されました！学生さんやスタッフさん達にも頭が下がります。これからも関わらせていただけたら嬉しいです♪

□ 宇山芳人

- 1) オープニングの、一言コメントをやらせていただきました～♪
- 2) 人の力ってすごいな！色々な所でつながっているんだな～

□ 鍛冶智也

- 1) 鴨ならぬ中年のブタがネギ背負って「1日の育児・家事時間の平均、男性48分！女性7時間41分を地域で変えよう！」と吠えたこと。娘のオムツ（使用前）で汗を拭って、笑いをとろうとしたこと。会場で、2歳の娘の緊張をほぐしたこと。
- 2) 企画の段階からラウンドミーティングまで、いろいろな人の意見や関心、問題意識、活動内容を知ることができてとても収穫だった。

□ 裕田栄

- 1) 当日は、準備はあまり手伝えず、グループに分かれて話を進めたり促したりしたぐらいです。
- 2) 色々な参加者の方の話を聴く、のは大事なな、と思いました。多くの発見やつながりが生まれますので～。

□ 関根章代

- 1) 当日だけ行っていきなりのグループ活動紹介
- 2) 年々充実している地域こぞって子育て懇談会。今年はスタッフ以外の、子育て中ママ・パパが少なかったのがちょっと残念でしたが、たくさんの支援者側の方々がいらして、港区の子育て支援のパワーを感じました。ハードの面はかなり充実しています。次なることは、支援を必要とする子育て中のママ・パパと支援者側をどうつなげるか？だと思いません。そんなつながりとその輪を広げていくことが、地域子育て情報ブログ Po Po Po チームの役割かと思えます。

□ 西川麻友美

- 1) ママ&パパ発メッセージ
- 2) 始めは何に参加したのかよくわからず、なんだか楽しいかもと思って参加していました（汗）。色々な方の意見を聞ける良い機会でした。当日はお祭りに参加したようで楽しかったです。

□ 廣田千秋

- 1) 年齢詐称疑惑のモモコ
- 2) まちにはいろいろな人が住んでいる。いろいろな人たちの考えを聞いてみたい。赤ちゃん、子ども、お姉さん、お兄さん、お父さん、お母さん、おじさん、おばさん、おじいさん、おばあさん。みんなとこぞって懇談会。なんだか知り合いがふえている。

□ 藤田理美

- 1) ママ&パパ発メッセージを企画メンバーとしてモニターしました。
- 2) 昨年子育て当事者として、そして今年は主催側として参加しましたが、昨年よりもかなりパワーアップしたと感じました。また、子育て当事者だけでなく他の立場の方と話すことができ、そのつながりを大切にしていきたいなと思いました。ご縁に感謝、感謝です。

・港区立子ども家庭支援センター

□保志幸子

- 1) その2 ママ&パパ発メッセージの司会
- 2) 毎回の企画会議がとても楽しかったです。学生さんと、子育てをしている皆さんと、子育て支援者と様々な立場で本音と夢を語り合いました。それがそのまま、大きな輪となる懇談会当日でした。港区の中でたくさんの人達が子どもを温かく育てよう、楽しいつながりの場を作り出そうと活動している！感動しました。今度は私たちはこれをネットワークにつなげていきたいですね。来年はもっと大きな輪になるようがんばりましょう。

□奥村直人

- 1) 去年に引き続き照明係をしました。
 - 2) 去年よりは「板についた」照明になったのでは？・・・とっております。
- 今回は機械室にも音声が届き、みなさんの熱いメッセージを直接聴くことができ、心に沁みました。私も「父親」として、お父さん達の活動に感銘を受けました。

□服部由子

- 1) その2 ママ&パパ発メッセージのつなぎ係
- 2) 企画会議の中で出てきた熱いメッセージを「どのような形で発信していこうか?!」と、悩んだことが思い出されます。そして当日、みなさんのあの“熱演”でメッセージを伝えることができたと思います。様々な立場で、様々な人たちが、子育てを支えていることを知りました。私たちも更にパワーアップして輪を広げていきたいと思えます。

□村中紀子

- 1) 今年も「保育」を担当しました。保護者の方に安心して子どもを預けていただき、子どもも子育て・家族支援者さんと楽しいひと時を過ごせるように配慮しました。子育て・家族支援者さんにも「地域こぞって子育て懇談会」の主旨についてお伝えしました。
- 2) 私のはいったグループには高齢者の方もいて、子育て支援の必要性について語っていただきました。広い年齢層の方が集まれる会こそ、この会の主旨に近づいていると思えました。

□猪爪智子

- 1) ビデオ撮影係
- 参加したのは初めてでした。地域で活動をしている方から直接聞くお話は心に響くものがありました。また、色々な立場の方が地域の子育てに関わっていることを改めて感じ、「地域こぞって子育て懇談会」をきっかけにさらにつながりが広がっていければいいと思えます。

□森幸雄

- 1) パワーポイントや映像の操作係
- 2) はじめての参加でしたが、皆さんの熱意が伝わってきて、自分自身も楽しんで参加することができました。参加者それぞれの立場での話も聞くことができ、とても勉強になりました。子育て懇談会を積み重ねていくことで、地域に子育て支援の輪がさらに広がっていくといいなと思えました。

□近藤和子

- 1) ママ&パパ発メッセージのつなぎ係
- 2) 初めての参加でしたが、大勢の方が企画から関わって作り上げてきたことを実感しました。この「地域こぞって子育て懇談会」をきっかけに、ますます地域の方が子育てに関心を持って関わっていただけるといいと思えます。

・社会学部附属研究所 ソーシャルワーカー

□濱田智恵美

- 1) 機材・ラウンドミーティング進行担当
- 2) センターのMさん、こき使って本当にごめんなさい！でも私達・・・、いいコンビでしたよね(笑)！そして、ラウンドミーティングでは、みなさんの温かいご協力で心から感謝しています。

□平野幸子

- 1) 全体をながめて、なだめたりすかしたり背中押したりたいたたり(?)しました。
- 2) 時々大学近くの高～いマンションを見ては、どんなにたくさんの知らない方々がここにいるのかしら?...と思えますが、きょうは顔つながりの人がふえて、なんだか嬉しくてたまりません♪



めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊とは・・・

社会学部付属研究所が、「港区地域こそって子育て懇談会」企画実現のために募集した学生ボランティアたちです。専攻や学年はさまざま、子どもと関わることが好きな人や子育てに関心のある人が集まっています。懇談会の企画会議のメンバーとして企画し、地域のママ・パパメンバーが同行したキッズたちの見守り役もしました。

① 元気いっぱい！意気込みいっぱい！！～応援隊に入った理由～

1年生のとき、ここのママ・パパの強い想いにひかれました。“地域”がテーマなのも、今の私の二重に合ってる(笑)。とりあえず、いろんな地域の人と関わりたい！学生ができる子育て支援を考えたい！そんな私。

心理学科2年 岩永 香香

子育ては将来通る道なので、お母さん方から子育てのお話が聞けると思ったこと、ここ数年、保育園の待機児童が問題になっているので、その解決の1つにならないかな？と思ったから。

心理学科3年 橋川 梓

1番の理由は、子どもと接する機会が欲しかったからです。皆、すごく元気がかわいくて一緒に時間を過ごせたこと、本当に嬉しく思います。もう1つの理由は、自分へのチャレンジでした。会議やみんなの前で話すことが苦手な自分を、少し変えられないかと思い、挑戦しました。人見知りして、たいした事も言えなかったけど、皆さんに一生懸命聞いてもらえて、すごく嬉しかったです。子育てについて色々考える良い機会となりました。ありがとうございました！

心理学科2年 片岡 真紀

子どもが好きだったのと、実際に子育てをしているパパママの生の声が聞けて、子育てとはどういうものなのか、ということを知ることができたらいいなと思ったからです。

心理学科2年 徳永 萌

私は子どもが大大大好きなので、応援隊に入ったら子ども達と触れ合えようと思い、参加させていただきました。プレイルームで出会った子ども達は皆、めっちゃくちゃ可愛くて、癒されっぱなしでした(笑)。応援隊に入って本当に良かったと感じています。これから応援隊で学んだ「つながり」を生かして、子育てパパさん、ママさんを支援していける存在になれるように、頑張りたいと思います！！

社会福祉学科3年 大貫 友

去年に引き続き、みなさんの話し合いがスゴイから！

社会学科3年 只野 麻美

結局どうなっているの??

世の中の子育ては大変だ！地域との連携が重要だ！親が働きながら子どもを育てるには壁が多い。なんてマイナスなことばかり言うけど、本当のトコロはどうなっているのか？それが少しでも分かればイナと思って応援隊に入りました。大変な思いをしているはずなのに、すごく元気な子どもたちと、生き生きしているパパとママを見て、もし学生でも役に立てるのなら、何かしたいという漠然とした気持ちも実現できたらいいなと思って、春のあつたかい日に社付研に初めて来ました。

社会福祉学科3年 野中 宏美

応援隊に入ったわけは、自分の知らないことを知らないままにしないで、興味を持ってみようと思ったからです。子育てとか、子どもとか、今まで接する機会がほとんどなく、考えたこともありませんでした。でも、大学生の今だからこそ、何にでも挑戦できると思い、参加してみようと思いました。参加したことによって、子育てって大変だけど、すごく楽しいものと思いました。

社会福祉学科4年 五月女 真由香

兄弟の中でも、親族の中でも、地域のお友だちの中でも、常に一番末っ子だった私。いつも遊んでもらう割で、小さい子と遊ぶことも、赤ちゃんを抱っこすることもありませんでした。そして、ふと気がついたこと・・・“子どもは可愛い。子どもは大好き。でも、遊び方・接し方が分からない・・・”そんな時、応援隊募集の掲示が・・・この出会いを大切に、もつともつと、キッズ&パパママたちと仲良くなりたかった！！

社会福祉学科3年 清水 志穂

教科書で勉強する子育ての現状ではなく、自分の目で最近のママたちがどんな感じなのか知りたくて、応援隊に入りました。授業が重なりすぎて、全てに参加できていないわけではないけど、当日は、地域の方々や企業の方をたくさんよんでいたり、それぞれのママさんサークルで楽しく活動している様子を、身近に感じることができて、「母は偉大だ」と実感しました。

心理学科4年 渡辺 愛祈

私が応援隊に入ったのは、子どもと触れ合いたいという思いと、地域のママ・パパたちの意見を聞きたい、子育てについて何を感じ、何を考え、何に悩み、工夫しているのか知りたいという思いからでした。そして、この応援隊で、子育てをしているママ・パパたちの様々な意見を聞くことができ、ホットな話題に触れ実際に活動していることを知ることができました。また自分の小さい頃はどつどつたかを振り返る良い機会にもなりました。すごく良い経験ができました！！ママ・パパは熱かった

心理学科2年 笠本 有希奈

ちびっこたちと遊びたい・・・と、学校生活ではなかなかできない体験を求めて。そして地域で生活している親子のなにかの活動に参加したい！学生も地域の一員になりたい！！とって応援隊に入隊しました。入隊後は、むしろ応援してもらった気がします・・・

大学院心理学研究科2年 紺野 麻希

3年経って、当初の理由は少し忘れてしまいました。ですが、今年続けようと思ったのは、卒業した4年生の白鳥センパイや浅野センパイの跡を継ぎたいと思ったからです。そして、2年間つなげてきた、こぞってのママさんたち、社付研の方々、子どもたちにも会いたかったからでした。今年は、会議に行くのでいっぱいいっぱいでしたが、お祭り(区民祭り)もほんの少しお手伝いできて、少しだけ輪を広げられたように思います。今年も続けられて本当に良かったです。

心理学科4年 西内 裕紀

もつとから、子育て支援に関心があって参加しました。行政、市民、大学が一緒になって活動しているのは素晴らしいことだと思いました。それまでは、“子育て支援=行政発信”と思っていましたが、“市民発信”の子育て支援について考えるきっかけになりました。

社会福祉学科3年 清野 南美



② キッズ・ママ・パパたちへの想い色づく

支援してもらった側の大人のマナーも大切ということ。あと子育ての輪に入れない人も中にはいるので、そういう人達が一歩踏み出す機会をもつとあるべきと思いました。

心理学科3年 橋川 梓

毎年グレードアップ!! ここに来る子どもも大きく、学生もママもパパも大きくなって、ますます激アツです!! 思いも強くなって、ますますそれに乗せられて、地域の人と仲良しな子ども7人のママになりたいです

心理学科2年 岩永 香香

1年間の活動を通して、パパママたちが、どのような思いで子育てをしているかということを知ることができ、とても良い経験になりました。また、子育てというものは、親だけでするものではないのだなと思いました。

心理学科2年 徳永 萌

すごく、勉強になった1年間でした。末っ子の私は、ほとんど今まで子どもと接する機会もなく、子育てについてわからないことだらけでした。でも、ママさん・パパさんの話を聞いて、子育ての楽しさ、大変さ、なやみを知り、地域の中で、子どもを育てる大変さも知りました。そして、応援隊に所属してから、町でみかける子どもママさん・パパさんに自然と目がいくようになりました。地域の見方が変わりました。本当にありがとうございました。

社会福祉学科4年 五月女 真由香

「こんにちは。よろしくお願ひします！」と笑顔で私たち応援隊にキッズたちを預けて下さったパパ・ママ。そんなパパ・ママたちの温かい気持ちと、キッズたちの可愛らしさをいつも感じる事ができました。会議の中でも“この街をよりよくしよう!!”というパパ・ママたちのパワーを強く感じました。この活動を通して、キッズ&パパ・ママから沢山のことを学ばせて頂きました。ありがとうございました！！

社会福祉学科3年 清水 志穂

今年は少し短めの活動でしたが、その分濃く、あつた議論、活動ができたように感じられます。隊長らしいことはあまりできませんでした。3年目の古株として、ほんの少しお手伝いできたことがあったなら良かったと思います。ママ、パパ、キッズに応援隊のメンバーとして社付研の皆様を支えられ、今まで続けることができたこと、とても感謝しています。卒業してからも遊びに来ますので、どうぞこれからもよろしくお願ひします。本当にありがとうございました。

心理学科4年 西内 裕紀

1年間の活動を通して、キッズのSMILEにいやされ心もなされ、パパ&ママのパワーに元気をもらいました。都会のどまんなかでこんなに沢山の家族が生活していることを知りました。一緒に遊び、話し、考え、共有できたことが私の宝物です。ありがとうございました。

大学院心理学研究科2年 紺野 麻希





～1年間の活動を通して～

初めてパパさん・ママさんにお会いした時に、何より感じたのは、そのパワーでした。子育てをより楽しめるように、何より子どもたちのために・・・と一生懸命に動き、考えてくれている姿は本当にキラキラしてました。ステキな事だと思います。そのパワーを受け取った私たちも、皆さんに負けないくらい輝く人になっていこうと思います。

心理学科2年 片岡 真紀

みんな熱いよね

社会学科3年 只野 麻美

キッズ&パパ・ママへ
今回応援隊のメンバーとして地域のパパ・ママたちと共に子育てについて様々な熱い話ができてすごく嬉しかったです。これまで、地域で子育てをするパパ・ママたちが子育てを通して、地域のつながり、もっと過ごしやすい街にしようとしていたことは全く知りませんでした。でもこの活動を通し、パパ・ママたちの熱い思いを知り、活動を知り、私たちも将来子育てをしていく身として、胸をうたれると同時に無関心ではいられなくなりました。パパ・ママたちに大きな熱いパワーをもらい、まだまだこの社会も温かみのある街であふれているんだなと思いました。この活動を通して、パパ・ママたちから学んだものはすごく大きく、今後の人生ですごく役に立つものばかりでした。これからは熱い思いとそのパワーで暖かな街にしていって下さい。私もその思いをたくさんの人に伝え、温かみのあふれる街にしていけたらと思います。本当にありがとうございます。

心理学科2年 ゆつき一なこ 笠本 有希奈

子育てについて考え、そして行動に起こしている港区のママさん・パパさんはすごいと思います！そして、このような活動ができることって、幸せなことなんじゃないかなと思いました。「市民力」というものを感じることができました。

社会学科3年 清野 南美

今年は大学院受験で応援隊の活動に参加することができなかったけど、あと2年明学に通うので、続けさせてもらいたいと思ってあります。キッズのキラキラした笑顔と、ママたちのパワーに会えるのを楽しみにしています。

心理学科4年 渡辺 愛祈

1年間という短い間の活動でしたが、私は子育て奮闘中のパパさんママさんの貴重な話がたくさん聞けて、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。まだ小さい子ども達ともいっぱい遊んで、本当に楽しかったです。私は応援隊としての活動を通して、身近な人達とのつながりの大切さを知りました。私の地域にも同じような活動を広めたいです。

社会学科3年 大貫 友

今年は、自分自身の用事と、応援隊の活動が“これでもかっ!!”という位重なってしまいました。とっても残念・・・そんな私にも優しく接して下さった応援隊と社付研の皆様にはとても感謝しています。応援隊の影響もあって、来年度は子ども関係のゼミに所属することにになりました。来年度はたくさん参加できるといいな。

社会学科3年 野中 宏美



応援隊メンバーが懇談会当日に向けて制作した掲示物「第5期Ver. 応援隊の気持ち 気持ちの森でピクニック」です。この中に、以下のメッセージが書かれています。

③ 子育ての想いが花開く!! ～私たちの子育てを考える～

「子育ては苦行ですか？」あるドラマでこのセリフを聞いて以来、ずっと頭から離れませんでした。それまで、私にとっての子育てはあつたかくて尊いものでしたが、このセリフを聞いてとても不安になりました。でも、今回の活動を通して、多くの子育て中の方々を見て、そんなことないな、やっぱり素敵なことだなと実感しました。一人としての人間を育てることは、決して簡単ではないけれど、自分次第で良い方へと導けるということを教わった気がします。

心理学科2年 片岡 真紀

応援隊の活動をする前までは、「自分の子育て」なんて想像もできませんでしたが、活動を通して、「とにかく愛情いっぱい育てたい!」、「子どもたち、パパ・ママたち、みんなが暮らしやすい街にしたい!」という思いが少しずつわいてきました。私もいつか温かいママになれますように・・・。

社会学科3年 清水 志穂

子育てって・・・大変そう。だけど、楽しそう幸せそう、子どもはかわいい。だから、絶対やってみたい。そのためには、パパと協力しなくちゃいけないし、家族やご近所さん etc・・・とたくさん協力し合う必要があると思いました。“私が子育てする時には良くなつてればイナ・・・”なんて気持ちばかり持っているのではなくて、“今ここから変えていこう!”という気持ちを持って行動しなくちゃいけないなと思いました。

社会学科3年 野中 宏美

私は、応援隊の活動で「地域のつながりの大切さ」を感じました。地域の人達が一緒になって、自分の子どもを育ててくれる環境って素敵だなと思います。私に子どもができれば、同じ地域に住む人に安心して子どもを預けられる関係を楽しみたいです。心から思います。

社会学科3年 大貫 友

まだ、自分が子どもを産んで育てることが具体的にイメージできなかったのですが、応援隊の活動で関わった、パパ&ママから将来のビジョンが見えてきた気がします。みなさんのように、子どもを愛し、地域を愛し自分の生活として enjoy するママになりたいです。

大学院心理学研究科2年 紺野 麻希

子育てをする主は、その子の両親なのだが、近所や地域の一通り触れ合うことで子どもも成長すると思うので、地域で協力が大切だと思います。

心理学科3年 橋川 梓

とりあえず自活させる!! 子どもは7人ほしいので(笑)。下の子のお世話はおにちゃんに任せて、たまには地域のママパパと子どもでお祭、遊び、何でもやりたい!

心理学科2年 岩永 香香

“楽しい子育て”がしたい!! 地域でワイワイ子育てがしたいです。近所の子どもをあずけ、あずかり、みんな子育てをしたい!! 自分の家の子じやない子どもでも、自然に声をかけるような近所づきあいをめざしたいです。

社会学科3年 清野 南美

子育ては、自分だけでなく、色々な人たちと一緒に子育てをしたいと思いました。パパママ同士や近所の人たち、よく行くお店の人など・・・そして、その色々な人との関わりから、子どもと一緒に色々な経験をしたいと思いました。

心理学科2年 徳永 萌

3年間応援隊で活動してきて、たくさんママ・パパに出会いました。お子さんのことを話す皆さんはとてキラキラしていて、「大変だ」と言っているのに、すごく素敵でした。子どもたちと触れあって、22才の私でもついていけないことに驚きました(笑)。あの溢れんばかりの元気で、きつとママ・パパたちを困惑させるんでしょう。でもそんな彼らに会うのが今の私の夢です。出会ったママ・パパのように、キラキラしたママになろうと思います。

心理学科4年 西内 裕紀

楽しい子育てがしたいです。いつでも笑顔で、地域の方とも仲良く、子どもが、いきいきと成長できる環境で育てたいです。応援隊を通して、地域のつながりは、めんどくさい面もあるけれど、人が生きていく上では欠かせないものなのだと感じました。特に子育ての場面は、多くの人の力が必要となります。子育てすることで、地域の方と顔見知りになり、自分にとって過ごすしやすい町づくりをしていきたいです。

社会学科4年 五月女 真由香

助け合わないと、大変そう・・・でも、スワゴク、充実しそう!

社会学科3年 只野 麻美

子育てについて考えてみると、まず一番初めに頭に浮かんでくるのは、あたたかい子に育ってほしいという思いです。そのためには、多くの人のつながりの中で、様々なことを学んで育ってほしいです。地域のつながり、ママ・パパたちの思いは大切だと実感しました。

心理学科2年 笠本 有希奈

子どもをた一つくさん愛して、冒険させて、ほめるときは大袈裟なくらいほめて、悪いことをしたらちやんと叱る、そんなママになりたいです。もちろんママ友だちをたくさん作ります!!

心理学科4年 渡辺 愛祈



1
2
3
4
5
6
7
8

明治学院大学社会学部附属研究所の特徴：

当研究所は、明治学院大学社会学部の研究の拠点であると同時に、地域に開かれた相談機関としての機能を持ち、地域活動相談(地域のみなさんのボランタリーな活動の応援、福祉施設・NPO等への支援)や講座企画・実施(市民や社会福祉実践家向け)、情報の収集と提供等の実践に取り組む研究所です。

●2000年度～2004年度の活動：

2000年度より、地域の福祉課題解決のための土壌づくりをめざし、市民自らによるボランタリーな活動を推進する目的で、市民講座を開催しています。

これまでにいくつかの市民講座を企画しながら、港区にはいったいどんなボランタリーな活動があるのか、どんな魅力的な活動があるのかを手探りで探し、さまざまな活動をしている方々と出会ってきました。

●2005年度の活動：

この間に、港区内の子育て・子育て環境がもっとよくなるよう取り組みたいという活動者との出会いもあり、子育て相互支援活動に着目して、特に子育て中の当事者による活動グループの方たちとつながりをもとうと努力しました。

2005年度、それまでに出会えたみなさんと「都心で子育てまっ最中！ママ・パパからの発信～子育てをささえる地域創りとは～」という市民講座をいっしょに企画しました(2006年3月開催)。上記講座をとおして、子育てをささえる地域創りを模索する上での課題がみえてきました。さまざまな子育てグループとの出会いから、子育て相互支援活動グループの課題や要望も伝わってきました。

●2006年度の活動：

2006年度にはいり、港区立子ども家庭支援センターより、「港区地域こぞって子育て懇談会」の企画協働という提案が舞い込みました。子育てグループの活動者たちと共に取り組めるならば、子育て当事者ならではの想いやニーズを盛りこんだ企画を立てられるかもしれない。そんなもくろみをもちました。限られた時間でしたが、元気に手を挙げてくれた活動者たちと、互いに学びあいの場をもちながら、企画に臨みました。(2006年度港区地域こぞって子育て懇談会「みんなで聞こう・いっしょに話そう～子育てをささえる地域創りとは～」2007年1月13日高輪地区・1月27日芝地区にて開催)

●2006年度～2007年度の活動：

港区内のいくつかの子育てグループ活動者たちは、グループ間をつなげていくネットワークをつくろうと動きだし、2006年度港区地域こぞって子育て懇談会において、「みなと子育てネットWa.Wa.Wa」の設立を表明しました。みなと子育てネットWa.Wa.Waは、2007年度に入り、「子育てグループをつなぎながら、必要な親子に情報を届けたり、子育て環境向上のためのイベントやアクションをしよう～」という目標のもと、活動を開始しました。当研究所も、みなと子育てネットWa.Wa.Waの活動を応援しました。

●2007年度の活動：

みなと子育てネットWa.Wa.Waより、自分たちが掲げた活動目標を達成するために、港区地域こぞって子育て懇談会の企画に主体的に関わりたいとの申し出があり、プロジェクトを立ちあげました。そのプロジェクトメンバーと当研究所スタッフ、当研究所が募集した学生ボランティア第3期めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊メンバーと共に、2007年度懇談会の企画立案に挑みました。(2007年度港区地域こぞって子育て懇談会「みんなで聞こう・いっしょに話そう～急募！子育てにやさしい店と街」2008年1月26日芝浦港南地区にて開催)

●2008年度の活動：

2008年度は、皮切りに2007年度懇談会での参加者からの投げかけを受け、市民講座「子育て支援は贅沢か？」を開催しました。2007年度懇談会での3つの提案について、みなと子育てネットWa.Wa.Waと第4期めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊メンバーと共に、その実現について模索しました。その経過報告と課題提起を、2008年度懇談会にて発信しました。(2008年度港区地域こぞって子育て懇談会「みんなで聞こう・いっしょに話そう～つながりの輪をひろげたいなァ～」2009年1月24日開催)

●2009年度の活動：

2009年度は、「子育て支援は贅沢か？その2」として、主に子育て支援活動者や事業所のみなさんとのつながりを重視した市民講座を開催しました。みなと子育てネットWa.Wa.Waと港区立子ども家庭支援センターによる子育てグループの集い「グループつながろう会」の開催、みなと子育てネットWa.Wa.Waが2008年12月にスタートしたブログ（地域子育て情報カフェPOPOPO）の運営等にも協力しました。また、地域の中でのさまざまな子育てについて、テーマごとに集まっておられる保護者のみなさんからお話を聞かせてもらう機会を得ました。その成果も、今後の課題提起や問題解決への応援に活かしていきたいと考えています。2009年度懇談会の企画会議は、2009年10月より始動し、第5期めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊メンバーと企画メンバーとして集まってくれたママ・パパ、港区立子ども家庭支援センタースタッフと共に企画セッションを重ね、子育て当事者による課題提起をしました。

・・・子育てをささえる地域創り・・・

さまざまな社会状況の中、たやすくないことがたくさんあります。でも、私たちの未来である「子どもたち」=小さな「市民」を育てるしごと、その環境を創造するしごとに、微力ながら私たちもひきつづき携わっていきたいと考えます。皆さま今後共よろしく願いいたします。

明治学院大学社会学部附属研究所

8 ソーシャルワーカーの所感

1 色も、柄も、風合いも異なる小さな布端を、一枚一枚チクチクとつなぎ合わせるとモチーフになり、それらのモチーフをいくつもいくつも組みあわせていくと、美しい花や模様、壮大な風景を表した一枚のキルトになります。そのようにしてつくり出されたキルトは、作り手の思いや、時として‘思想’さえ表すそうです。

みなさんとの一年間の取り組みを振り返りながら、「私たち研究所のソーシャルワーカーの仕事って、キルトづくりのようだなあ…」と感じています。

3 4 5 6 7 8 昨年の芽吹き頃から、「2009年度懇談会で何を、どんなふうに発信しようか？」と、企画の切り口を探るために、地域の中で様々な取り組みをされている方々との出会いを重ねてきました。一見、子育ての支援とは無関係に見える活動や取り組みも、子どもも親も、地域で安心して暮らすことのできる地域創りという視点から改めて眺めてみると、それらの活動が思いもよらぬところで子育て支援とつながっていて、私たちも、活動している方自身も‘目からうろこ’という瞬間がいくつかありました。懇談会当日、そんな発見の喜びを共有させていただいた方々から、取り組みを報告していただけたことは、本当に大きな収穫でした。

2009年度懇談会のキーワードは、2008年度懇談会に引き続き‘つながり’でした。つながるためにはエネルギーも気遣いも、想像力もこれまでに以上に必要とされる今の時代に、キルトづくりというならば、チクチクとつなぎあわせる私たちソーシャルワーカーの仕事を、時として‘おせっかい’に感じられる方がおられるかもしれません。それでも、「一人一人が、一つ、一つの活動が繋がった瞬間に、思いがけない知恵やパワーが生まれる喜びをたくさんの方に感じてもらえたらいいなあ…」。そんな思いとともに、日々の仕事を模索しています。

私たちのほたらきが、キルトのように美しく、温かな地域を創り出すための一針になったら、とてもうれしいです。

最後になりましたが、私にとって2009年度懇談会は、ソーシャルワーカーとして関わらせていただく最後の懇談会となりました。2年9ヶ月という短い間ではありましたが、研究所に在籍している間、出会いのあったすべての方々に心から感謝申し上げます。そして、これからもみなさんの応援団の一員でありたいと、強く願っています。

ソーシャルワーカー 濱田 智恵美

「今回の懇談会に、子育て支援だけではない団体や活動者の方に来ていただけてよかったね」という言葉を何人かの方からいただきました。私たち自身、本当にそう思っています。こぞって当日が過ぎ去った後も、「こぞっての動きに今後も注目しますよ〜」とか、「私たちの活動も子どものことは大いに関係するので、これからもいっしょに〜」とか、「こぞってで聞いた子育て当事者の要望を、関わりの会議の場で発言しましたよ〜」などのメッセージ、その後の地域でのつながり創りの取り組み情報も、私たちのところに届いてきています。

懇談会での出会いは、今のところたった年1回です。でも、濱田ソーシャルワーカーの言う“チクチクとつなぎあわせる”営みを、たしかに私たちは日々飽きもせず楽しみながら模索してきたように思います。その少しずつのチクチクが、この度のうれしい数々の出会いにつながったと思っています。ですが、私たちだけがチクチクしてきたのではなさそうです。懇談会という場は、ここに参集したみなさんに共感というエネルギーをもたらし、ほんのちょっとずつかもしれませんが、チクチクを伝播させているように思うのです。4回の積み重ねの中にそんなことを感じます。

この度の懇談会を見学にいらしたみなさんが、ラウンドミーティングという、参集したみなさんが丸くなって小さなグループで話すやり方を、「いいね」と言ってくれたとあとから聞きました。「いいね」と言っていただけのことって嬉しいです。地域のことを共に考えようと言っても、セクターの相違はもちろん、利害関係だってあるかもしれません。この懇談会を企画・実施するにあたり、心してきたことは、上下・左右・前後(?)なく、参集した人たちが同等に対等に、膝つき合わせて対話することでした。そのための知識やスキルも必要と考え、私たちは、ファシリテーションやコーディネーション(この言葉には、同等にする / 対等にするという意味があるそうです)という手法を獲得しようと、研修などへ行き自己投資もしました(まだまだ不十分ですが)。この同等に対等に向き合って対話するための演出手法、これは、チクチクするための針のひとつ、しかも少し太めの針かもしれないと思います。見学にいらしたみなさんには、見学だけではなく、対話する、その『現場』を共にしていただければよかったと思いました。ぜひ次回は、膝をつき合わせるためにイスをおすすめしますね。

ソーシャルワーカー 平野 幸子



♪オープニング♪

クーポンズ

ミドボン (田村みどり)・ミケボン (内海良子)

ミズボン (中田瑞枝)・タマボン (羽田珠子)

♪クロージング♪

ちびっ子ナイト養成倶楽部

ようこ・さちえ

ゆうせい・だいち・れおな・もな・ゆめの・ゆうき

地域こそって子育て懇談会企画メンバー

伊佐見節子・碓田 栄・中鉢康子・関根章代

藤田理美・西川麻友美・赤松紀子・鍛冶智也

宇山芳人・廣田晴彦・廣田千秋・丸山由香子

めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊

岩永春香・大貫 友・笠本有希奈・片岡真紀・紺野麻希

清水志穂・清野南美・五月女真由香・只野麻美・徳永 萌

西内裕紀・野中宏美・橋川 梓・渡邊愛祈

主催：明治学院大学社会学部附属研究所

所長／野沢慎司

教員／北川清一 (主任)・茨木尚子・大瀧敦子

ソーシャルワーカー／平野幸子・濱田智恵美

主催：港区立子ども家庭支援センター

所長／保志幸子

奥村直人・服部由子・村中紀子・猪爪智子・森 幸雄・近藤和子



2009 年度 港区地域こそって子育て懇談会 報告書

～みんなで聞こう・いっしょに話そう～

つながりの輪をひろげたいなあ、まちに顔見知りがあると安心できるね

2010年3月30日発行

編集／明治学院大学社会学部附属研究所

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37 TEL03-5421-5204/5205 FAX03-5421-5205

Eメール issw@soc.meijigakuin.ac.jp

発行／港区立子ども家庭支援センター

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-3-20 TEL03-3432-8341 FAX03-3432-8344

刊行物発行番号 21344-4711

